

# I 調査概要

---

# I 調査概要

## 1. 調査目的

本調査は、県の政策に対する県民の満足度や、日常生活や意識の変化などを定期的に把握し、県政運営のための基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査対象・地域

長崎県に居住する15歳以上の男女個人

## 3. 調査方法

郵送による自記入式調査

## 4. 標本抽出

各市町住民基本台帳による等間隔無作為抽出

## 5. 標本数・回収数

発送数：3,000

回収数：1,671（回収率 55.7%）

## 6. 調査実施期間

平成21年11月20日（金）～平成21年12月11日（金）（22日間）

## 7. 調査主体

長崎県知事公室広報広聴課

## 8. 報告書の見方

- （1）比率は全て百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の計が100%にならないことがある。
- （2）基数となる実数はNとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- （3）1人の回答者が複数回答を行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。

## 9. 分析における地域区分

集計データの地域別分析においては、県内を5地域に区分し、その地域特性等について考察を行った。地域区分については、以下のとおりとした。

地域	市 町
県南地域	長崎市、西海市、時津町、長与町
県央地域	諫早市、大村市
県北地域	佐世保市、平戸市、松浦市、佐々町、鹿町町、江迎町、波佐見町、東彼杵町、川棚町
島原半島地域	雲仙市、島原市、南島原市
離島地域	五島市、壱岐市、対馬市、新上五島町、小値賀町

## 10. 回答者属性

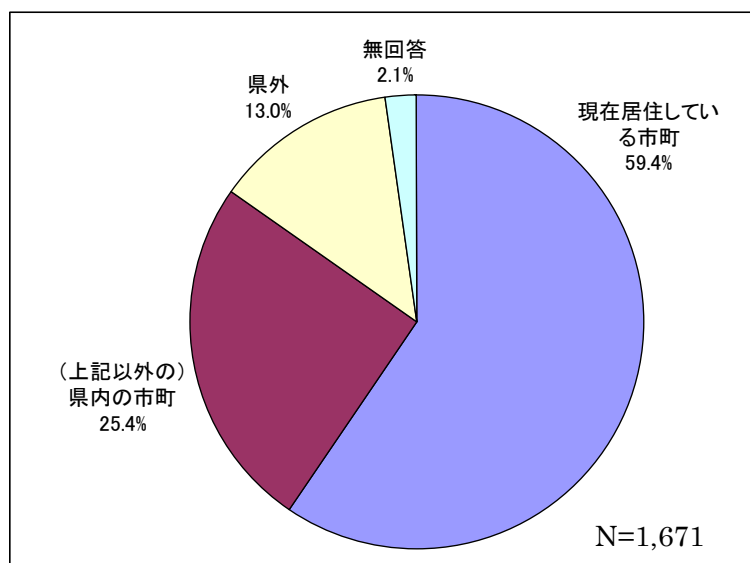
### 【居住地】

居住地は、「長崎市」が30.4%で最も多く、「佐世保市」16.4%、「諫早市」9.8%と、ほぼ人口（配布）割合に応じた回答割合となっている。

		回答数	構成比
(1)	長崎市	508	30.4%
(2)	佐世保市	274	16.4%
(3)	島原市	48	2.9%
(4)	諫早市	163	9.8%
(5)	大村市	95	5.7%
(6)	平戸市	41	2.5%
(7)	松浦市	32	1.9%
(8)	対馬市	41	2.5%
(9)	壱岐市	35	2.1%
(10)	五島市	36	2.2%
(11)	西海市	46	2.8%
(12)	雲仙市	55	3.3%
(13)	南島原市	53	3.2%
(14)	長与町	49	2.9%
(15)	時津町	34	2.0%
(16)	東彼杵町	12	0.7%
(17)	川棚町	19	1.1%
(18)	波佐見町	21	1.3%
(19)	小値賀町	6	0.4%
(20)	江迎町	10	0.6%
(21)	鹿町町	8	0.5%
(22)	佐々町	24	1.4%
(23)	新上五島町	35	2.1%
	無回答	26	1.6%
	計	1,671	100.0%

### 【出身地】

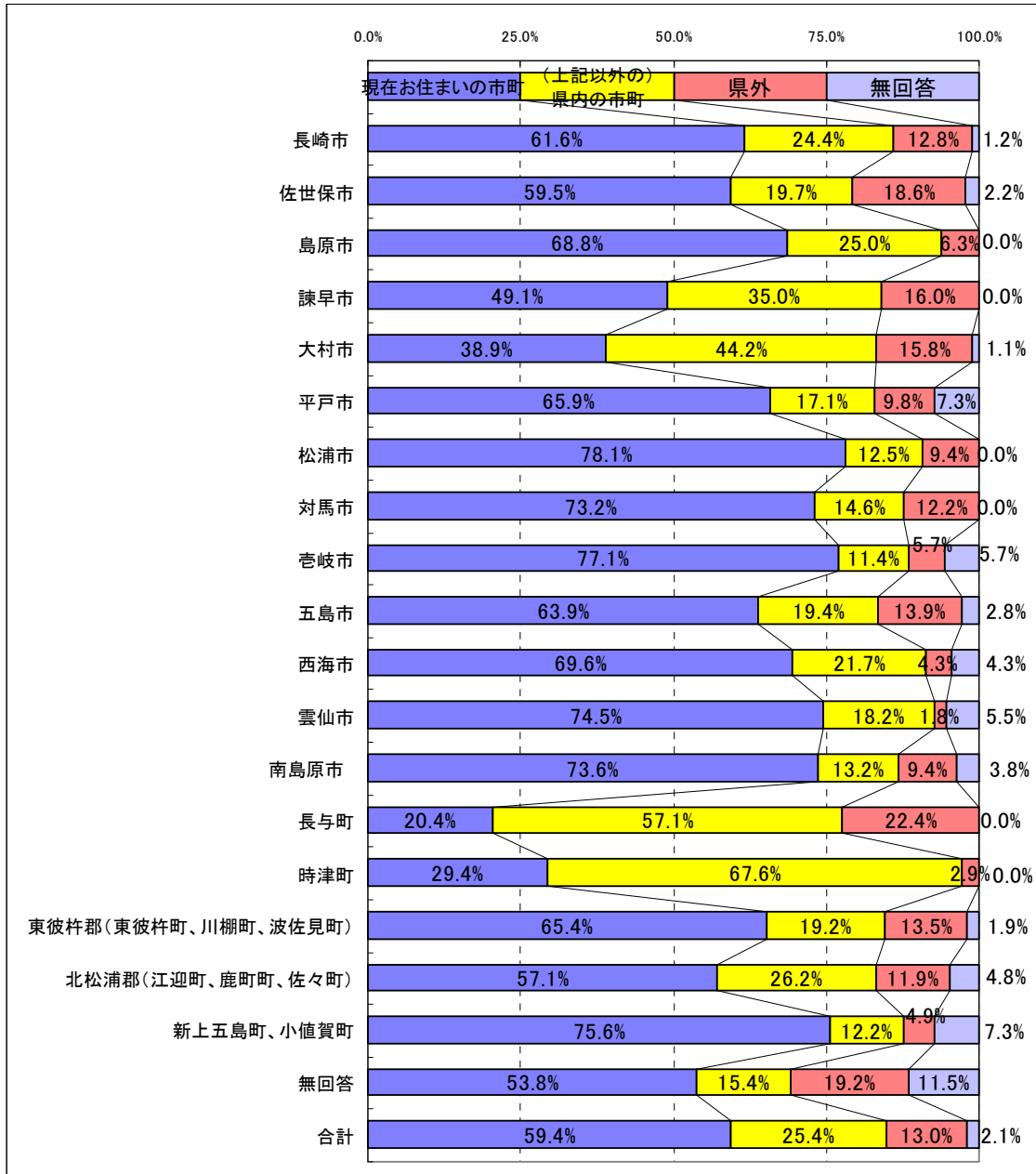
出身地は、「現在居住している市町」が59.4%と最も多く、「現在居住している市町以外の県内市町」が25.4%、県外が13.0%と、全体90%近くの人が、本県出身者であり、県内在住者の多くが本県出身者であると推測される。



(居住地別:出身地)

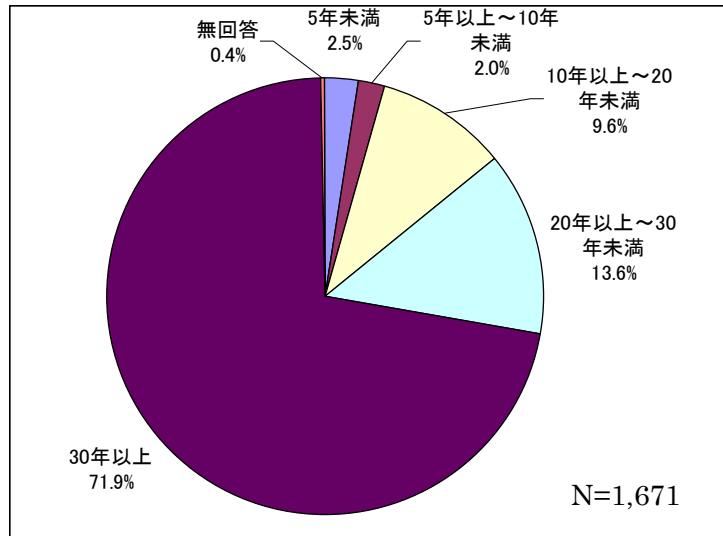
出身地に現在居住している人の割合をみると、松浦市の78%が最も高く、次いで壱岐市の77%、新上五島町・小値賀町の76%と続いている。

出身地が県内の他市町である方の割合は、時津町の68%が最も高く、次いで、長与町の57%、大村市の44%の順となっている。また、出身地が県外である方の割合は、長与町の22%が最も高く、佐世保市の19%、諫早市および大村市の18%の順となっている。



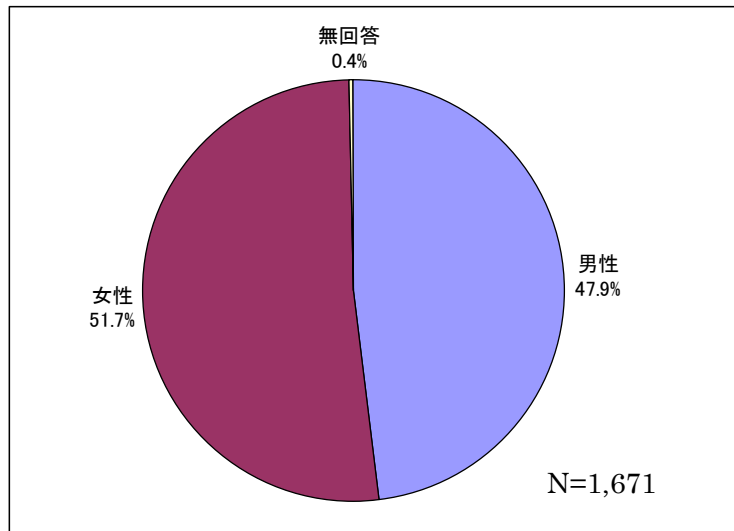
## 【居住年数】

居住年数は、「30年以上」が71.9%と最も多く、「20年～30年未満」が13.6%、「10年以上～20年未満」が9.6%と、95%以上が10年以上の居住者である。



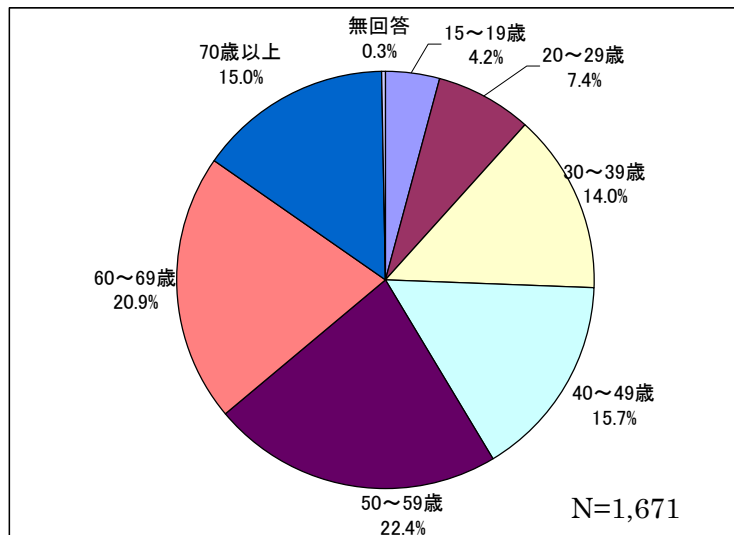
## 【性別】

性別は、男性46%、女性53%と、やや女性の割合が高くなっている。



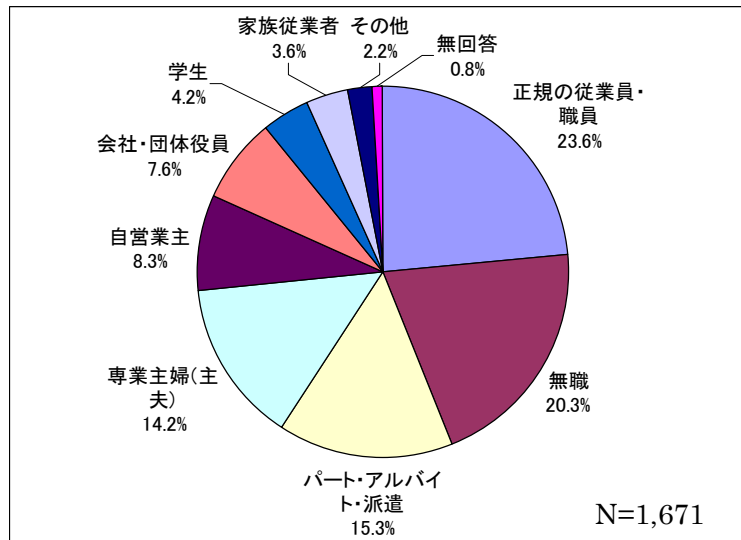
## 【年代】

年齢は、50代が22.4%と最も多く、次いで60代の20.9%、40歳の15.7%、70歳以上の15.0%の順となっている。50歳以上では58.3%と半数以上を占めている。



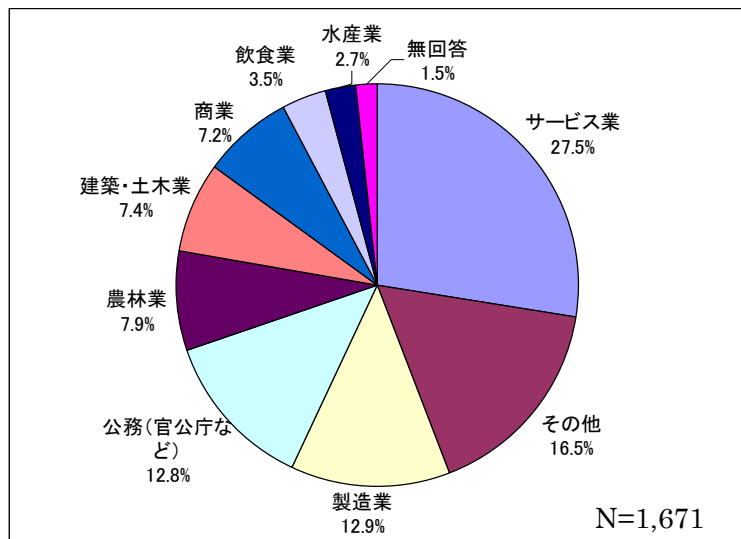
## 【職業】

職業は、「正規の従業員・職員」が23.6%と最も多く、次いで「無職」が20.3%、「パート・アルバイト・派遣」が15.3%の順となっている。



## 【有職者の業種】

前問における有職者の業種については、「サービス業」が27.5%で最も多く、「その他」を除くと、「製造業」12.9%、「公務(官公庁など)」12.8%の順となっている。



## II 調查結果要旨

---

## 【県政全体の満足度、日常生活の満足度について】

### 県の政策における満足度

世界同時金融危機以降、更に厳しさを増す経済情勢や雇用情勢などを背景に、「県の政策の総合的な満足度」は調査開始以来、3回連続して低下しています。

特に、「商工業の振興」、「雇用対策」、「定住化・UIターン」などの不満度が高く、「雇用の確保」が最重要課題となっています。

### 日常生活における満足度

『日常生活の総合的な満足度』は、前回調査に比べて大幅に低下しています。

これは、働き盛りの20代から50代を中心に「老後・将来の生活設計」の“不満度”が大幅に増加していることが大きな要因であると考えられます。

## 【分野別の取り組みについて】

### 雇用



雇用の問題や不安は、“給料水準”や“仕事先が見つからない”などが県内全域の共通の課題となっています。その解消のためには、企業誘致や地場企業への支援を行いつつ、「介護・医療・福祉」、「農林水産業」、「新エネルギー」などの新しい分野での雇用確保が求められていると考えられます。

### 観光・交流人口の拡大



活用すべき観光資源は、ハードではなく、各地が持つ自然環境、農業・漁業体験プログラム、歴史・文化、食、郷土芸能などの地域資源であり、年代層にあわせた活用方策の検討が必要であると考えられます。また、最も身近なマーケットである県民の7割は、県内旅行をしていない未開拓層である。厳しい経済情勢を逆にとり、“安・近・短（安い、近い、短い）”の県内旅行に県民をどのように取り込んでいくかも課題のひとつであると考えられます。

### 長崎県産品



食の安全、安心が求められる時代を背景に、全体の半数が「県産品を重視して買い物する」を選択し、さらに購入層の5割以上は「他県産よりやや高くても長崎県産を選ぶ」など、県民の評価も高くなっています。今後は、地域産品の掘り起こしとブランド化を図り、値段以上の付加価値をいかに構築し、発信、販売できるかがポイントであると考えられます。また、将来を見据え、若い世代に県産品の価値を発信していくことも重要な課題のひとつであると考えられます。



## 農林水産業



後継者育成は県内全域の共通の課題となっており、支援を期待する声が多くなっています。今後は、ハード面に加え、地産地消、販路拡大、直売所等による交流拡大などのソフト面の支援、さらには地理的に不利な地域での農林水産業への支援が期待されていると考えられます。

## 子育て支援



「充実した保育サービス」、「子育てと仕事との両立」、「経済的支援」などの子育て支援サービスと子育て費用へのバランスの取れた総合的な支援策が期待されていると考えられます。また、全体の8割が“家庭の教育力が低下”していると認識する中で、親の関わりあいに加えて、多様なふれあいによるたくましい子どもを育てる環境づくりが課題であると考えられます。

## 医療



救急医療体制の整備については、年代別、地域別ともに一次救急医療体制から三次救急医療体制まで含めた総合的な救急医療体制の整備が求められていると考えられます。また、全体の7割は、自宅からの近さや対応の丁寧さなどを理由に、“かかりつけ”の医師や診療所、病院を決めていることがわかりました。

## 健康づくり



全体の7割は、概ね健康という認識を持つが、高年代層や「保健・医療の充実」の満足度が低い離島地域では平均を下回る状況が確認されました。

「生活習慣病対策」、「年齢等に応じた運動の方法」、「食生活の改善方法」などの情報を求める声が多くなっています。今後は、これらの情報をいかに効果的に情報発信していくことが重要であると考えられます。

## 高齢者福祉



高齢者施策では、「ひとり暮らしの高齢者に対する援助」や「介護者に対する援助」などの高齢者の生活に対する支援を期待する声が多いが、それ以外の施策についても一定の支持があるため、幅広い施策の展開が期待されていると考えられます。介護予防事業とあわせて効率的に展開していくことが必要であると考えられます。

## 行財政改革

求められている行財政改革は、職員数や給与、事業全般などを中心に幅広い分野にわたっています。今後もさらに、県職員の意識改革や県民参画、分かりやすい情報発信を進めながら、目に見える改革を推進することが必要であると考えられます。

## Ⅲ 調査結果

---

# 1. 県政全体の満足度

県の政策に対する県民の満足度を定期的に把握し、今後の県政運営のための基礎資料とするため、県の政策における分野毎の満足度と県の政策の総合的な満足度についてお尋ねしました。

今回の調査で、「県の政策の総合的な満足度」は、調査開始以来、3回連続で低下していることがわかりました。これは、世界同時金融危機以降、更に厳しさを増す経済情勢や雇用情勢などが背景にあると考えられます。

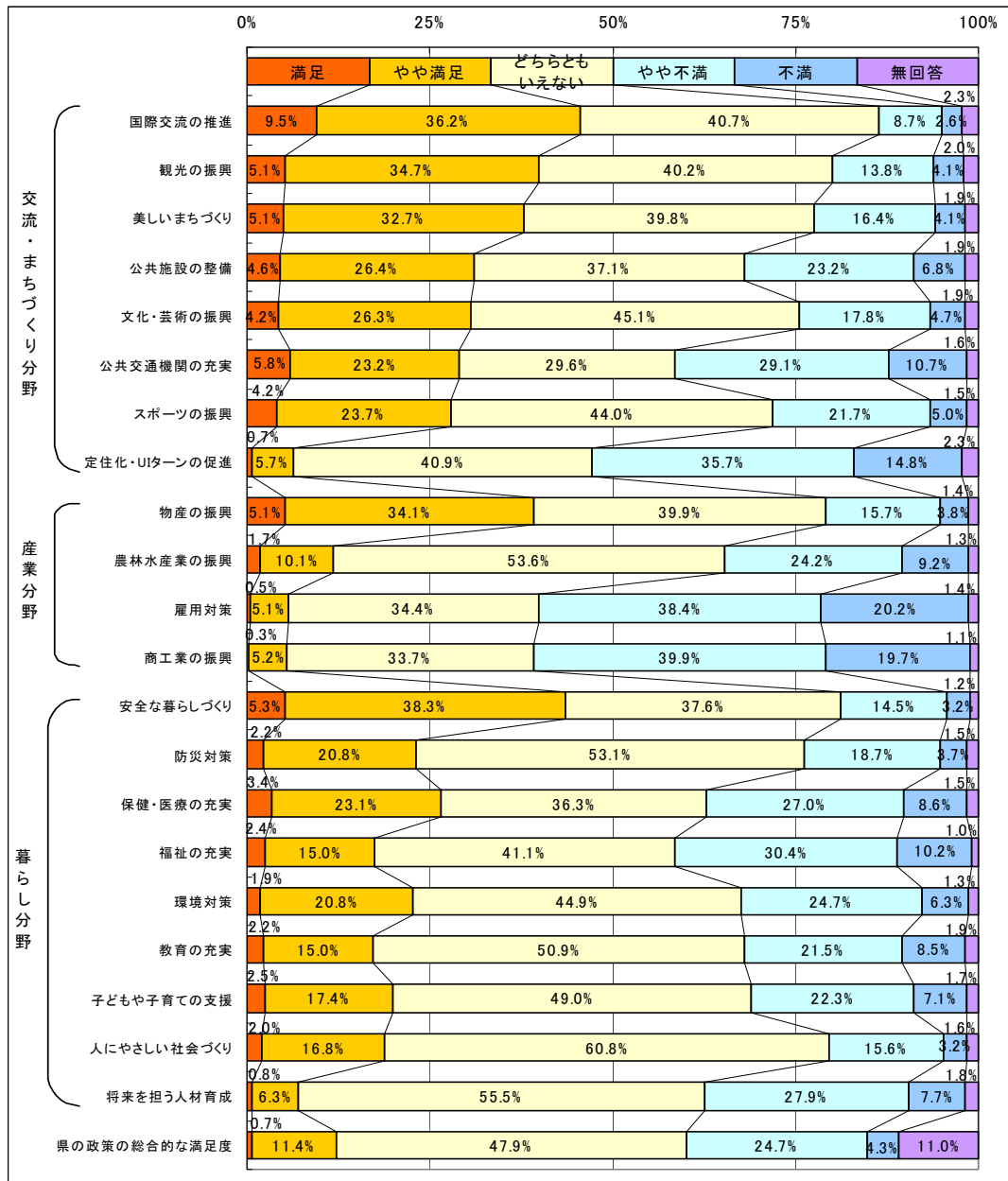
特に、「商工業の振興」、「雇用対策」、「定住化・Uターン」などの不満度が高く、「雇用の確保」が最重要課題となっています。

## Q1～2: 県の政策における分野毎の満足度

それぞれ該当するものに、1つ〇印をつけてください。

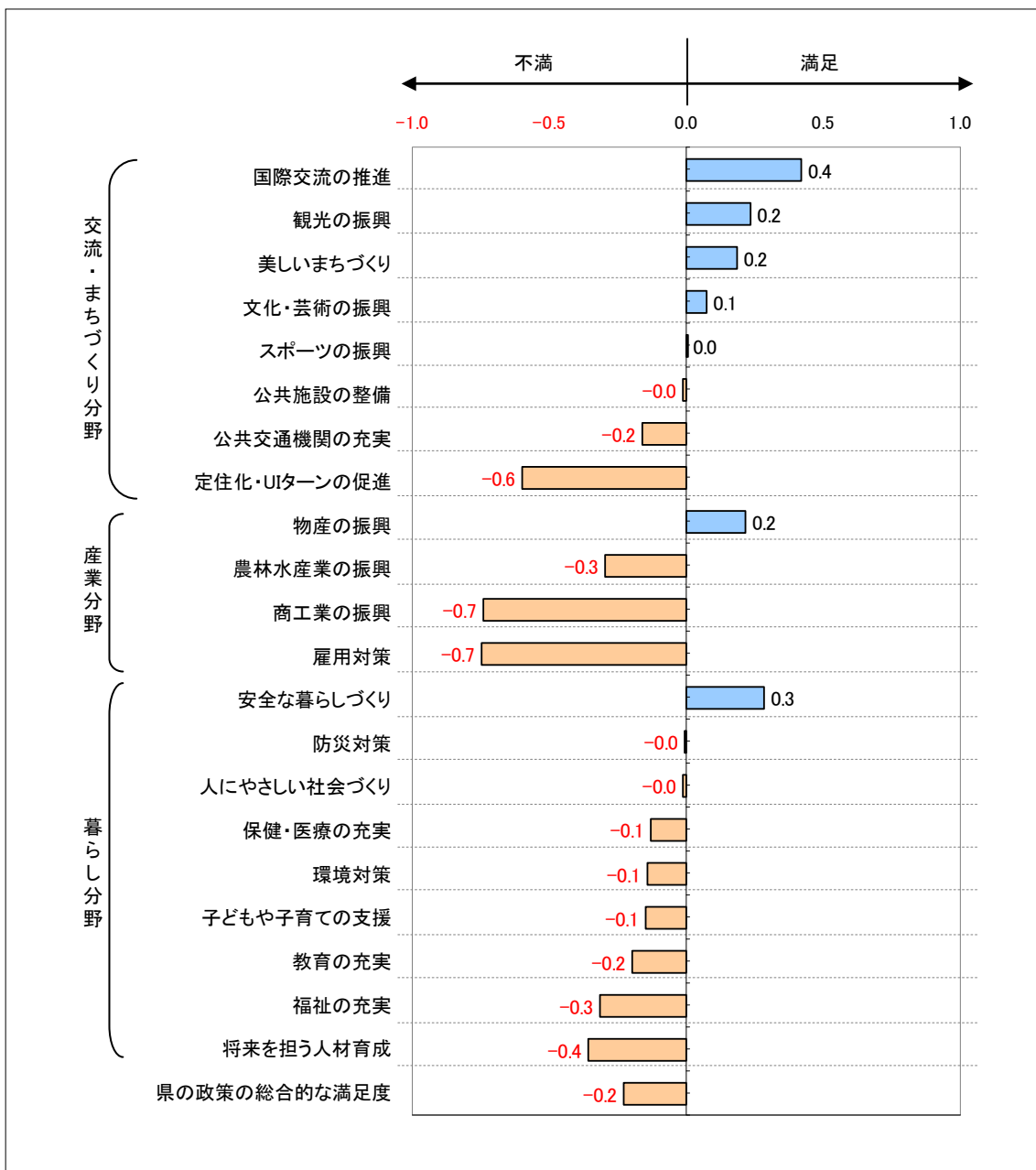
(全体: 単純集計)

N=1,6711



(全体:指数化)

満足=2、 やや満足=1、 やや不満=-1、 不満=-2



## 【県の政策の総合的な“満足度”】

### 『県の政策の総合的な“満足度”』は前回調査に比べ更に低下

県の政策の総合的な満足度は、全体的には、「満足」「やや満足」の合計が 12.1 ポイント、「やや不満」「不満」の合計が 29.0 ポイントと、不満度が満足度を上回る厳しい結果となった。この背景には、平成 20 年 9 月のリーマン・ショックを発端とする世界的な金融危機による長引く経済不況やそれに伴う雇用情勢の悪化、先行きの見えない社会保障制度、歯止めがきかない人口減少、少子高齢化の進行などにより、県民の生活に対する不安感が増大していることなどの複合的な要因が背景に存在することが考えられる。

平成 12 年度調査からの経年変化をみると、満足度は調査開始以来、3 回連続で低下しており、その割合は平成 12 年度調査では 27.8 ポイントであったのが、今回調査は 12.1 ポイントと半分以上まで低下している。

## 【分野別政策の“満足度”】

### 不満度が高い分野は「商工業の振興」、「雇用対策」、「定住化・UI ターン」など

### 「雇用の確保」は長崎県にとって最重要課題に

分野別でみると、特に満足度が低いのは「商工業の振興」、「雇用対策」、「定住化・UI ターン」などである。特に、長引く経済不況を背景に改善の兆しが見えない「雇用対策」については、性別、年代、地域、職業などに関係がなく不満度が高いが、中でも離島地域や島原半島地域などの一次産業が基幹産業となっている地域のほか、働き盛りの 30 代を中心に大きな不満要因となっている状況が確認された。

また、県の政策の総合的な満足度と分野別の満足度との相関関係で特徴が見られたのものとして、10 代は「保健・医療の充実」、「将来を担う人材育成」、20 代は「商工業の振興」、「雇用対策」、30 代は「教育の充実」、「保健・医療の充実」、40 代は「国際交流の振興」、「観光の振興」などが高い結果となっている。

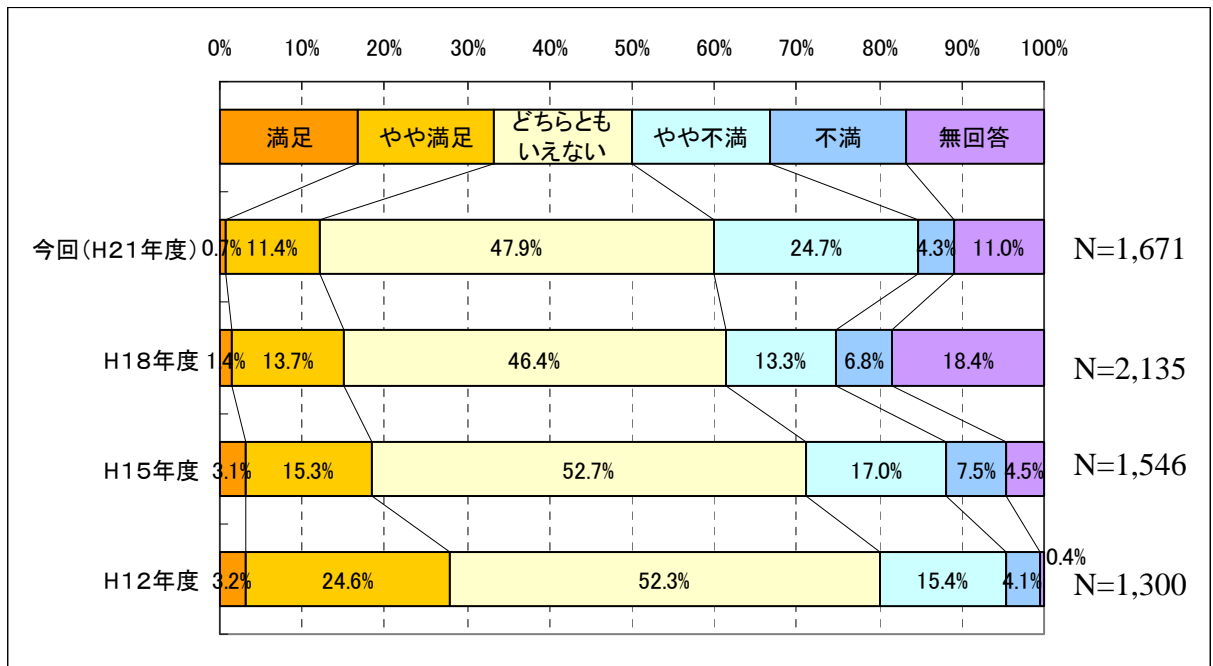
長崎県総合計画策定に向けたアンケート調査（平成 21 年 7 月実施）で把握した「重要度」とのクロス分析を行うと、「商工業の振興」、「雇用対策」、「定住化・UI ターン」などは優先順位が高い分野として浮かび上がり、「雇用の確保」は最重要課題であるといっても過言ではない。

(県の政策の総合的な満足度の経年変化)

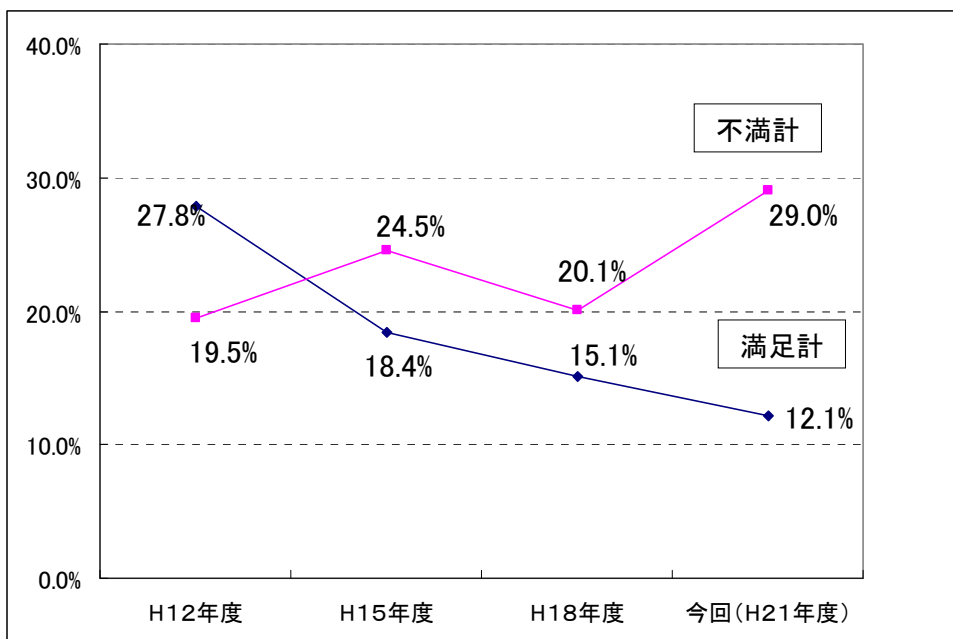
過去の調査結果をもとに経年変化をみると、県の政策の総合的な満足度は、調査開始以来、3回連続で低下しており、「満足」と「やや満足」の合計は、平成12年度調査においては27.8ポイントであったのが、今回調査では12.1ポイントと半分以上まで低下している。

一方で「やや不満」、「不満」は増加傾向にあり、今回調査では「やや不満」と「不満」の合計が29.0ポイントと、「満足」、「やや満足」を大きく上回る結果となっている。

この背景には、世界的な金融危機による長引く経済不況やそれに伴う雇用情勢の悪化、先行きの見えない社会保障制度、歯止めがきかない人口減少、少子高齢化の進行などにより、県民の生活に対する不安感が増大していることなどの複合的な要因が背景に存在することが考えられる。



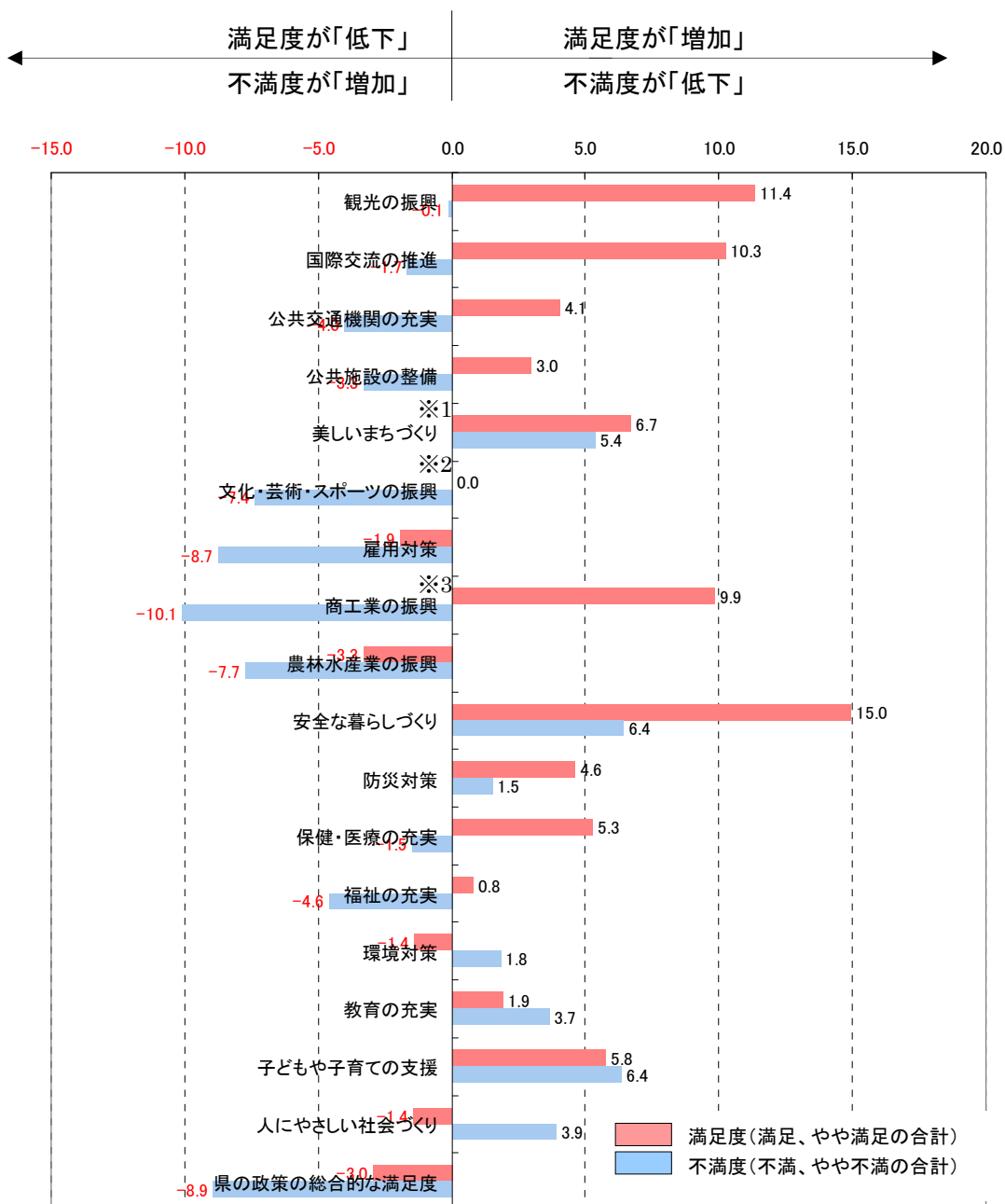
(満足計と不満計の経年変化)



(前回調査と今回調査の分野別満足度・不満度の増減)

分野別の満足度について、平成 18 年度の前回調査と今回調査の結果を比較分析する。満足度を「満足」、「やや満足」の合計、不満度を「不満」、「やや不満」の合計とした場合、満足度が増加したものは「安全な暮らしづくり」が 15.0 ポイント増で最も高く、以下、「観光の振興」の 11.4 ポイント、「国際交流の推進」の 10.3 ポイントの順となっている。特に「安全な暮らしづくり」は不満度も低下しているなど総合的にみて評価が高まった傾向がうかがえる。

一方で「雇用対策」、「県の政策の総合的な満足度」については、満足度が低下し不満度が増加している。「商工業の振興」については不満度が 10.1 ポイント増加しているが、満足度も増加しているなど異なる傾向をみせている。

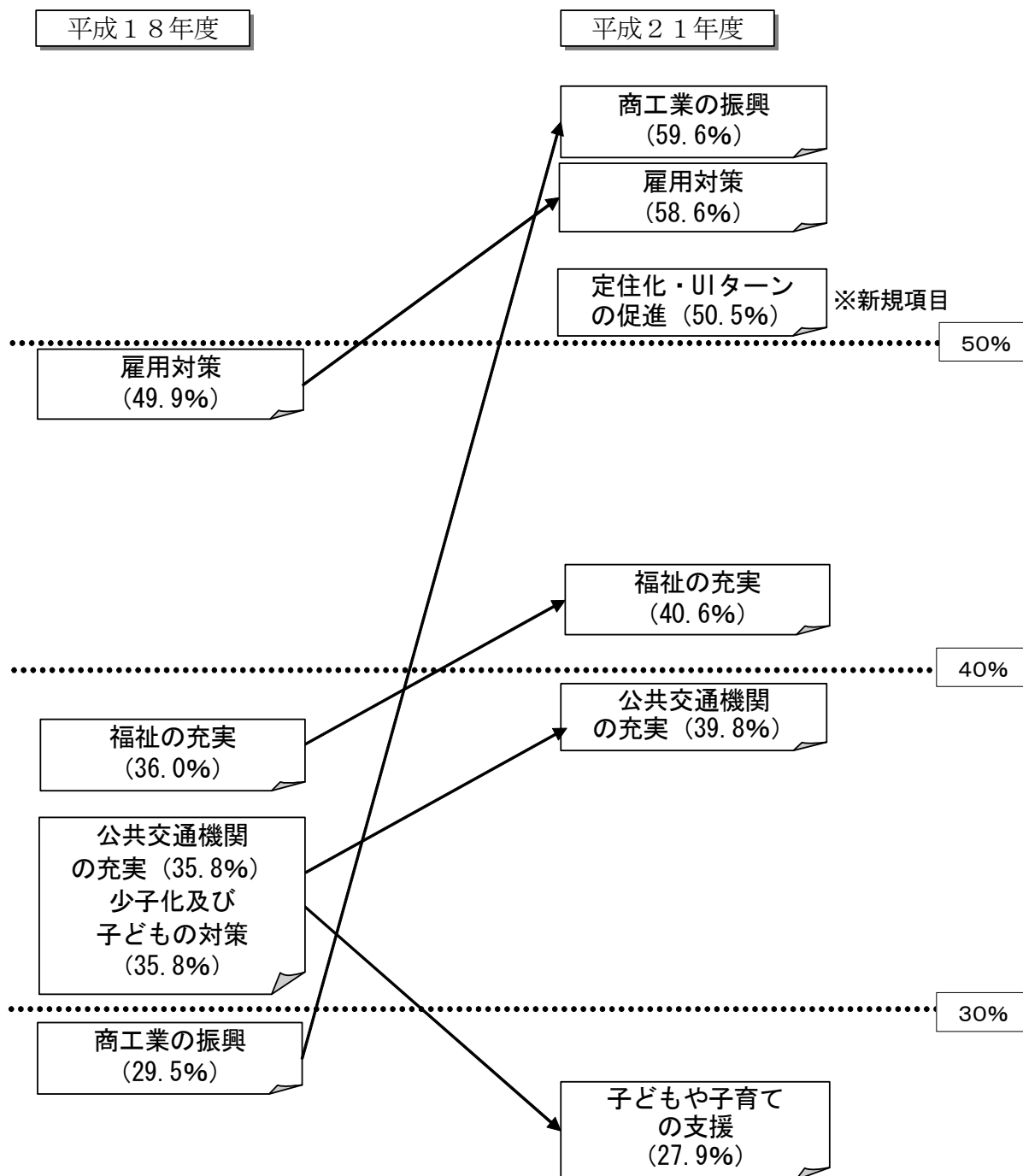


※ 1 「美しいまちづくり」はH18 調査における「住みやすいまちづくり」と比較

※ 2 「文化・芸術・スポーツの振興」はH18 調査と比較するため、「文化・芸術の振興」、「スポーツの振興」を合算して比較

※ 3 「商工業の振興」はH18 調査と比較するため、「商業の振興」、「物産の振興」を合算して比較

## 「分野別政策の不満足度」 上位5項目の前回調査との比較



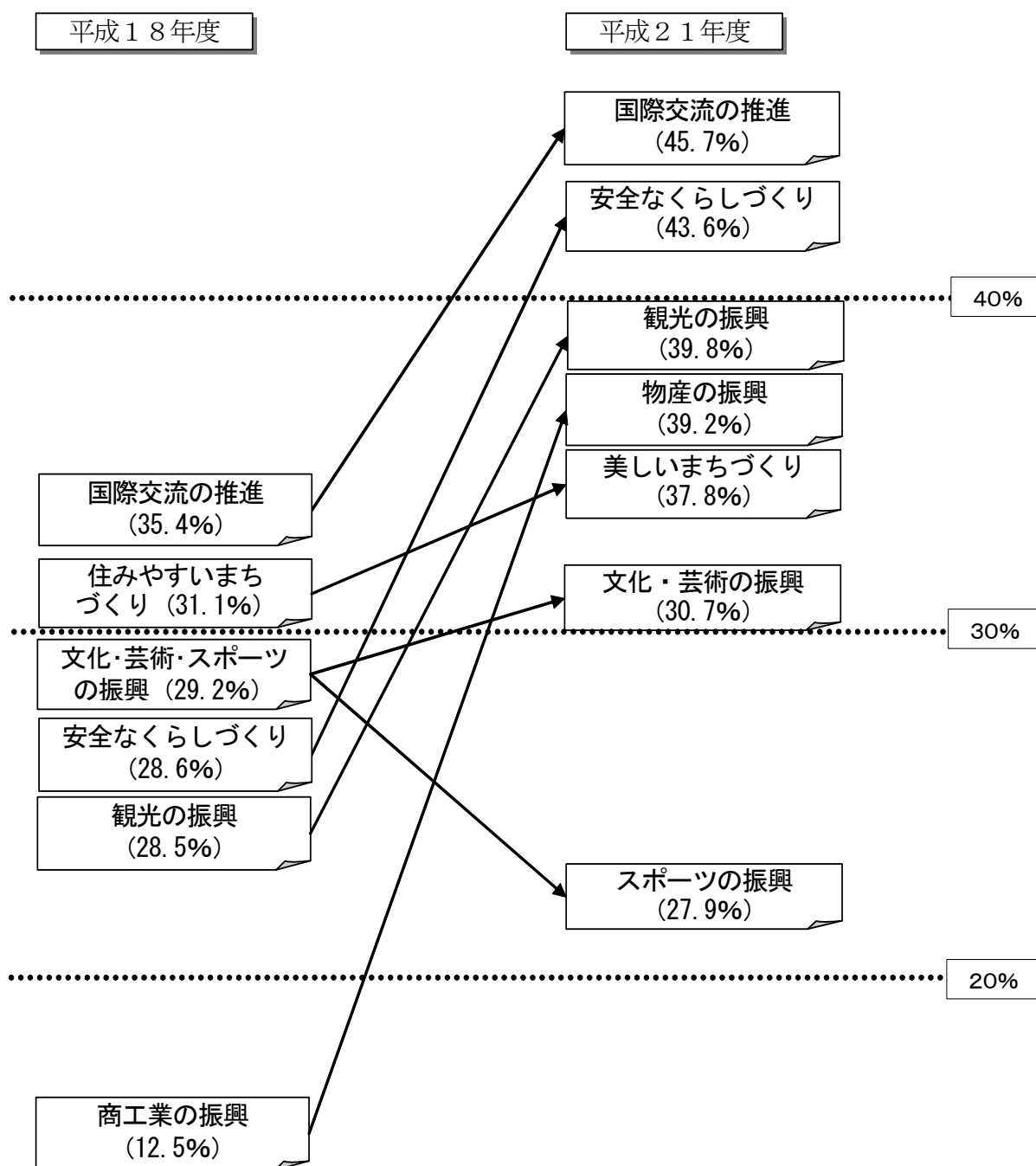
長引く経済不況を背景になかなか改善の兆しが見えない「商工業の振興」、「雇用対策」に対する満足度が低い。「定住化・Uターンの促進（若者の流出防止）」についても、地元で働きたくても職がないなどの雇用環境が影響していると推測される。

一方、「子どもや子育ての支援」の不満足度がかなり改善されている。これは、平成18年度からこども政策局を設置して、すべての子どもと子育て家庭に対し、子どもの成長に応じた切れ目のない子育て支援施策を推進してきたことが、要因のひとつであると考えられる。

※「商工業の振興」は、H18調査時は「物産の振興」が含まれていたため単純に比較はできないが参考として表示している。



## 「分野別政策の満足度」 上位5項目の前回調査との比較



前回調査と同じく「国際交流の推進」の満足度が最も高い。その他の分野についても 満足割合は増加しており、特に「国際交流の推進」、「安全なくらしづくり」、「観光の振興」の上位3分野については、前回の調査から満足度が10ポイント以上増加している。

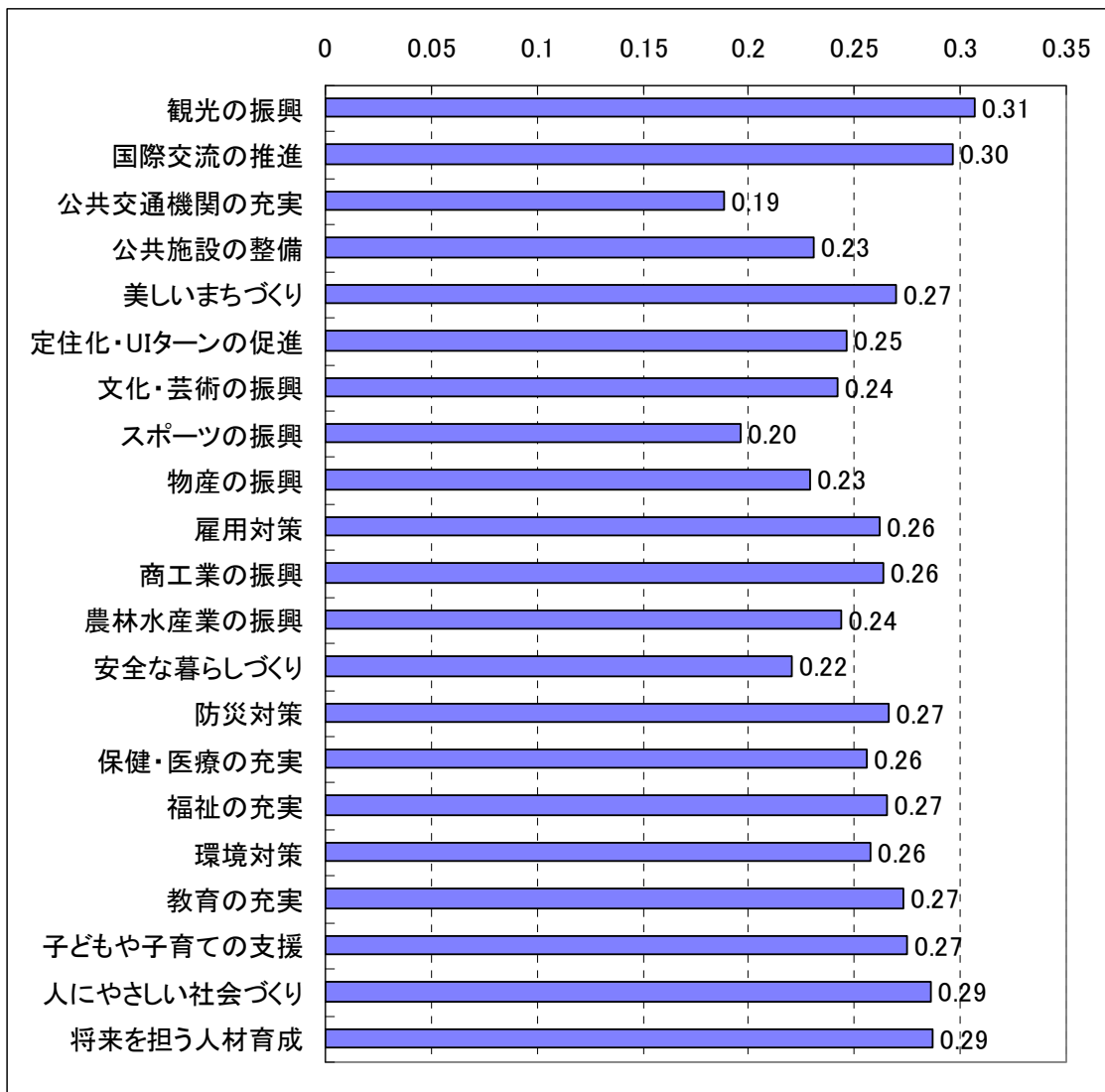
※「美しいまちづくり」はH18調査における「住みやすいまちづくり」と比較

※「物産の振興」は、H18調査時は「商工業の振興」に含まれていたため単純に比較はできないが参考として表示している。

(分野別の満足度と県の政策の総合的な満足度との相関関係)

分野別の満足度と県の政策の総合的な満足度との相関関係をみると、いずれも相関係数が 0.5 未満と明確な関連性は確認できないが、「観光の振興」、「国際交流の推進」が最も相関係数が高くなっている。

年代別でみると、10代は「保健・医療の充実 (0.63)」、20代は「商工業の振興 (0.59)」、30代は「教育の充実 (0.47)」、40代は「国際交流の推進 (0.48)」、50代は「福祉の充実 (0.37)」、60代は「観光の振興 (0.32)」、70代は「国際交流の推進 (0.26)」が最も相関係数が高い。



(年代別でみた分野別の満足度と県の政策の総合的な満足度との相関関係ベスト3)

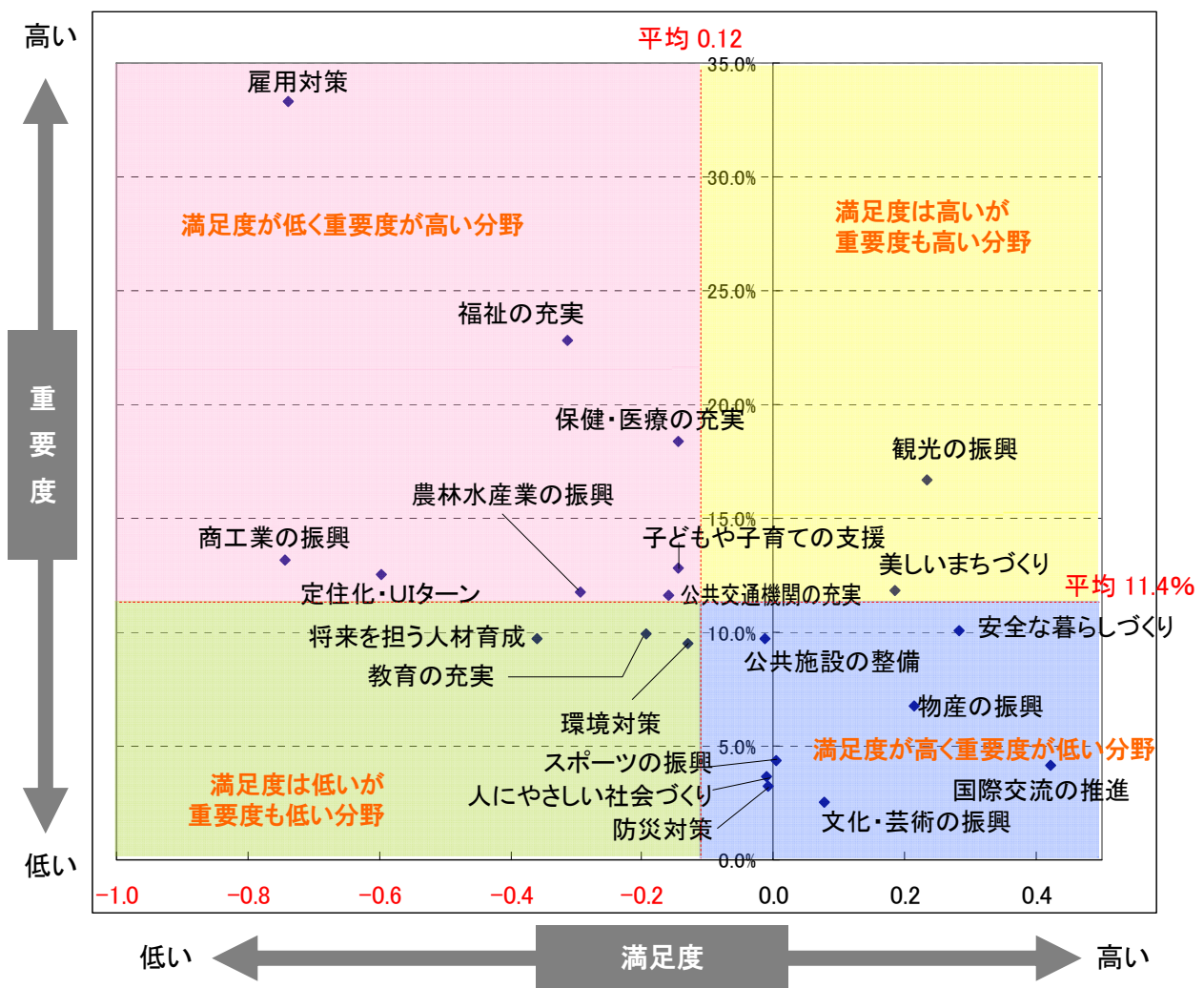
	第1位	第2位	第3位
10代	保健・医療の充実	将来の担う人材育成	人にやさしい社会づくり
20代	商工業の振興	雇用対策	定住化・UIターン
30代	教育の充実	保健・医療の充実	環境対策
40代	国際交流の推進	観光の振興	保健・医療の充実
50代	福祉の充実	保健・医療の充実	商工業の振興
60代	観光の振興	防災対策	農林水産業の振興
70代以上	国際交流の推進	環境対策	人にやさしい社会づくり

(長崎県総合計画策定に向けたアンケート調査における「分野別重要度」と  
本調査における「満足度」の関係)

平成 21 年 6 月に実施した長崎県総合計画策定に向けたアンケート調査（以下「県民アンケート調査」と略）では、今回の調査の“問 1”で実施した満足度評価の 21 項目と同様の項目で施策の「重要度」を尋ねている。

今回調査と県民アンケート調査は実施時期や対象が異なるが、参考までに本調査で把握した「満足度」を X 軸とし、県民アンケート調査で把握した「重要度」を Y 軸とした場合のクロス分析を行ってみる。

分析の結果、重要度、満足度のそれぞれの平均をもとに 4 つの分野に整理したところ、最重要課題分野と考えられる“満足度が低く重要度が高い分野”には、「雇用対策」、「福祉の充実」などが該当する。また、“満足度は高いが重要度も高い分野”には「観光の振興」が、“満足度が高く重要度が低い分野”には、「国際交流の推進」、「文化・芸術の推進」などが該当する。



## 2. 日常生活の満足度

県民の日常生活や意識の変化を定期的に把握し、今後の県政運営のための基礎資料とするため、日常生活の満足度と現在の日常生活の総合的な満足度についてお尋ねしました。

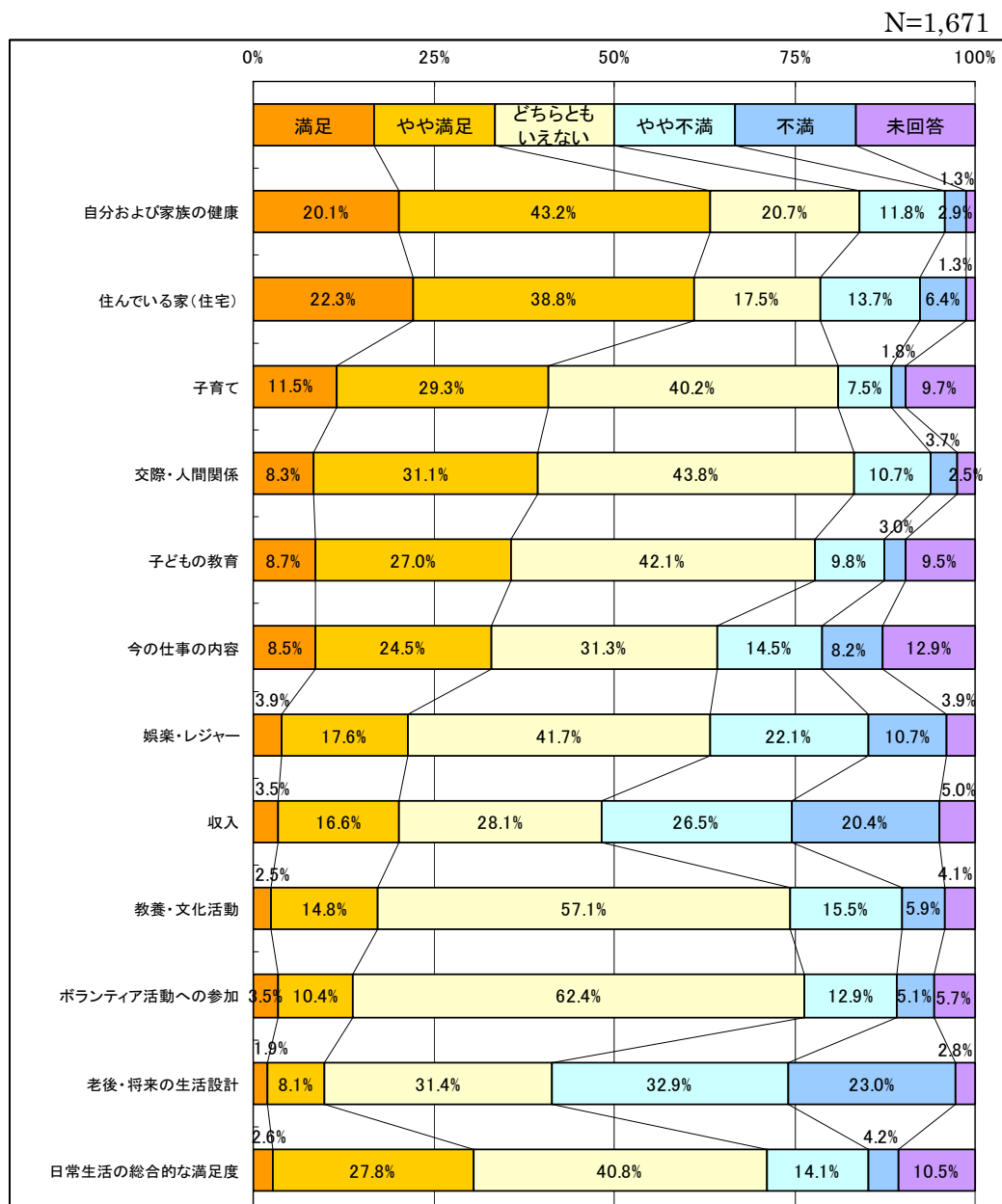
今回の調査で、日常生活の総合的な満足度は、前回調査に比べ大幅に低下していることがわかりました。

これは、先行きが見えない社会保障制度改革を背景に、働き盛りの20代から50代を中心に「老後・将来の生活設計」の“不満度”が大幅に増加していることが大きな要因であると考えられます。

### Q3～4: 日常生活における満足度

それぞれ該当するものに、1つ〇印をつけてください。

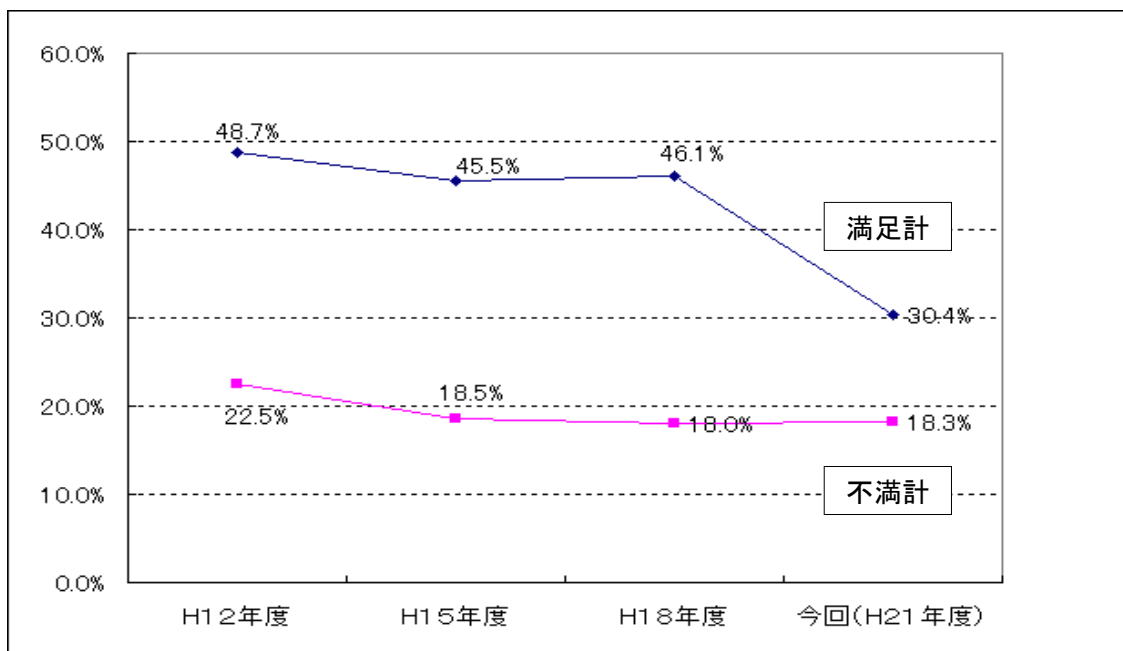
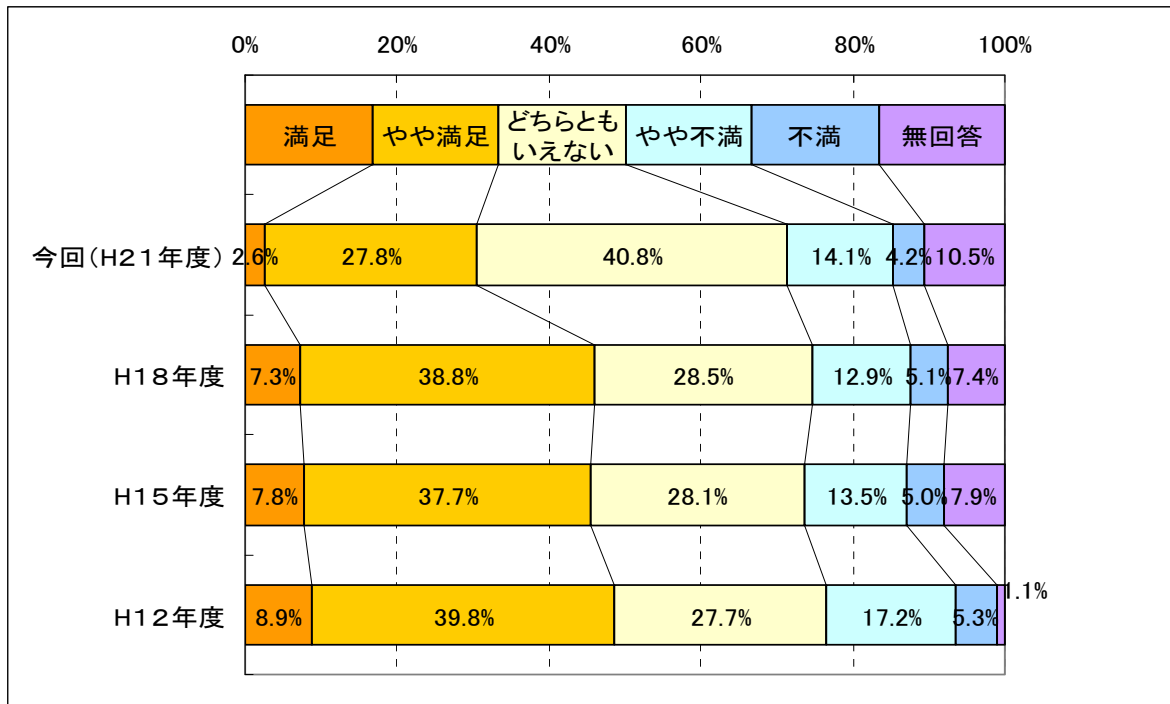
(全体: 単純集計)



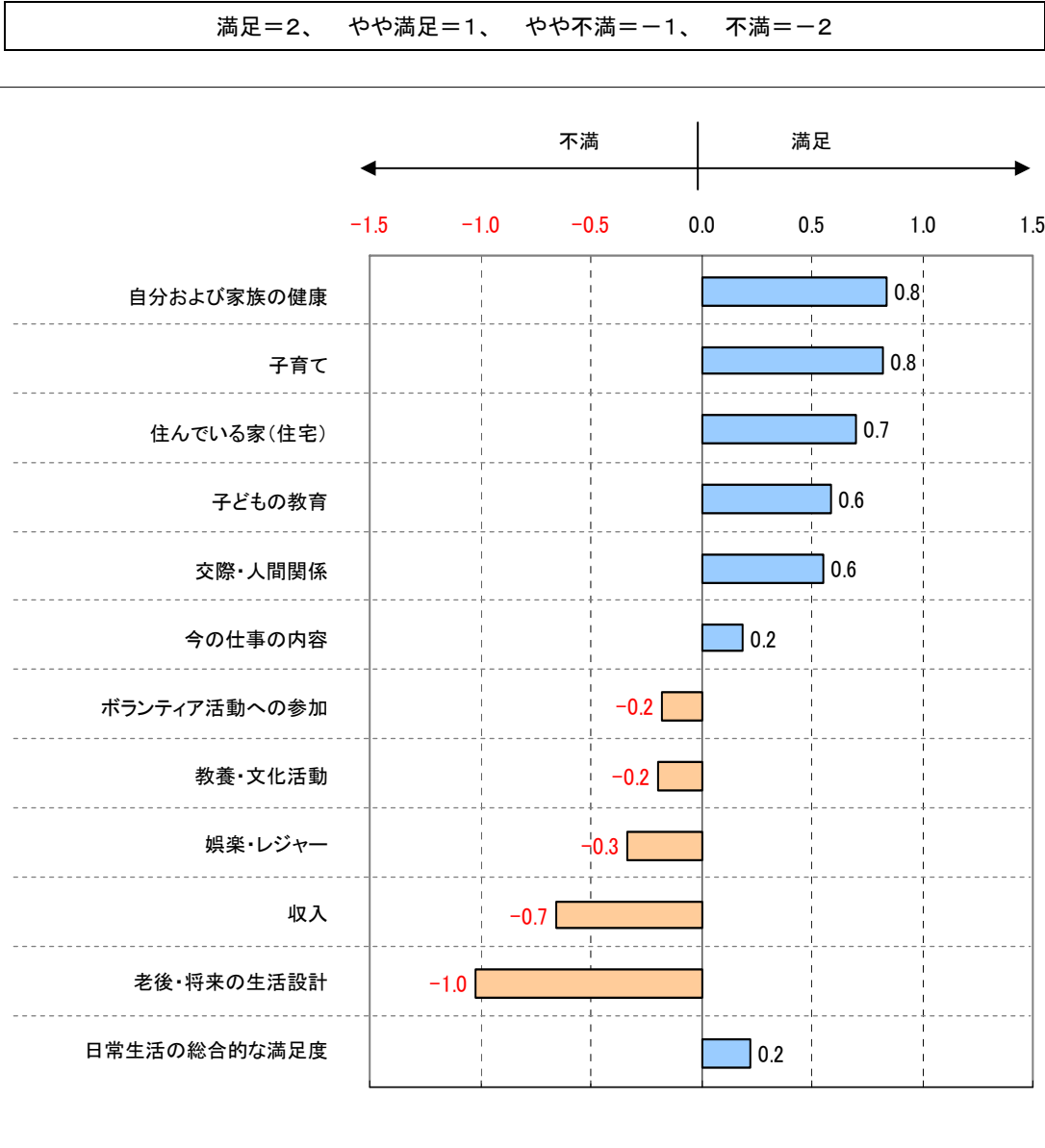
(日常生活の総合的な満足度の経年変化)

過去の調査結果をもとに経年変化をみると、日常生活の総合的な満足度における「不満」、「やや不満」の合計は、ほぼ同値となっている。一方、「満足」、「やや満足」の合計は、前回調査から大幅に低下し、その分「どちらともいえない」が増加することとなった。

このことは、年金、医療、福祉など、先行きの見えない社会保障制度、歯止めがきかない人口減少、少子高齢化の進行などを背景に、県民の日常生活全般に対する不安感が増大していることなどがひとつの要因ではないかと考えられる。



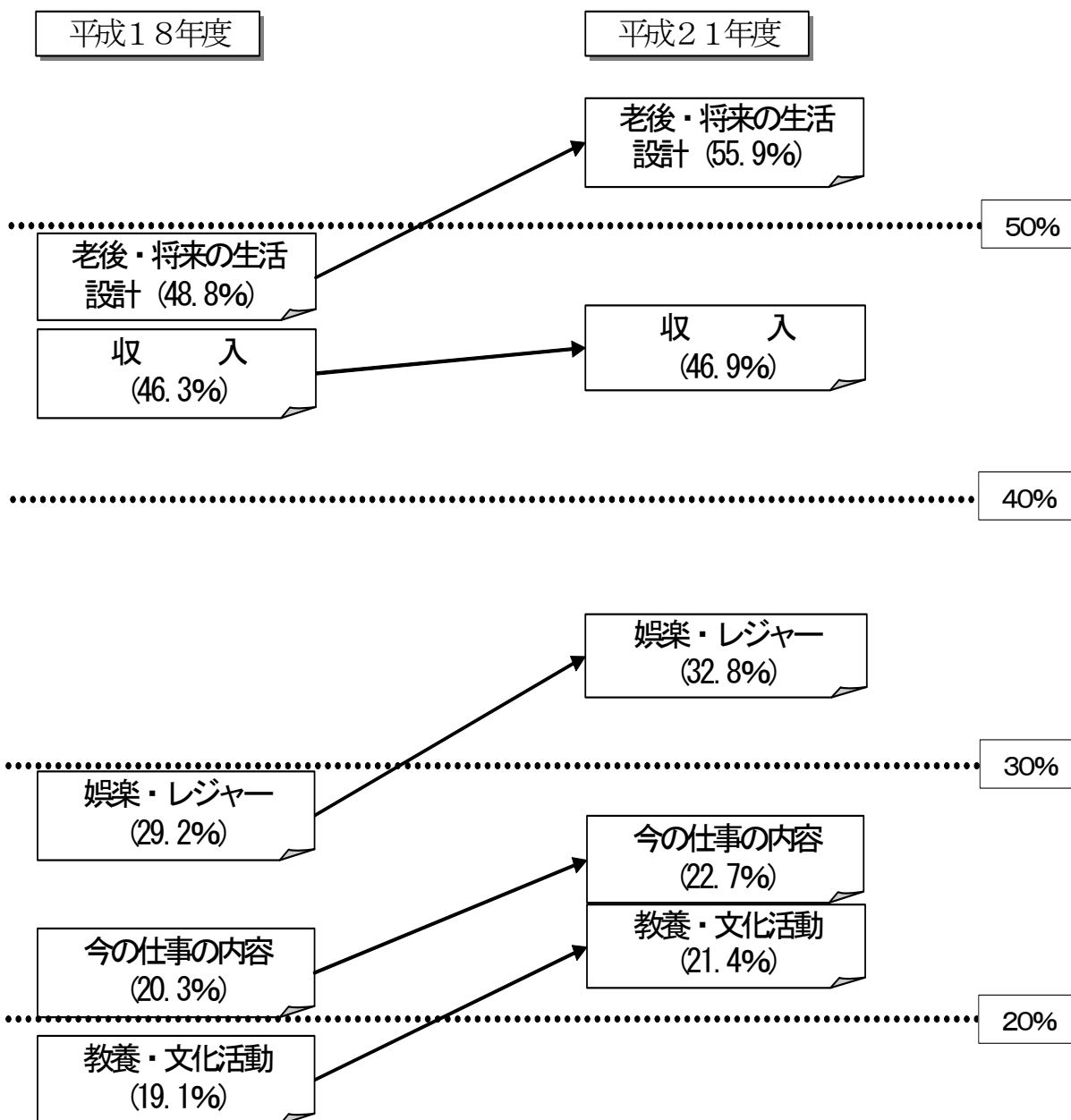
(全体:指数化)



日常生活の総合的な満足度は、「やや不満」「不満」の合計が 18.3%、「満足」「やや満足」の合計が 30.4%と満足計が不満計を上回る結果となったが、前回調査結果と比較すると、「満足」「やや満足」の合計は 15 ポイント程度低下している。

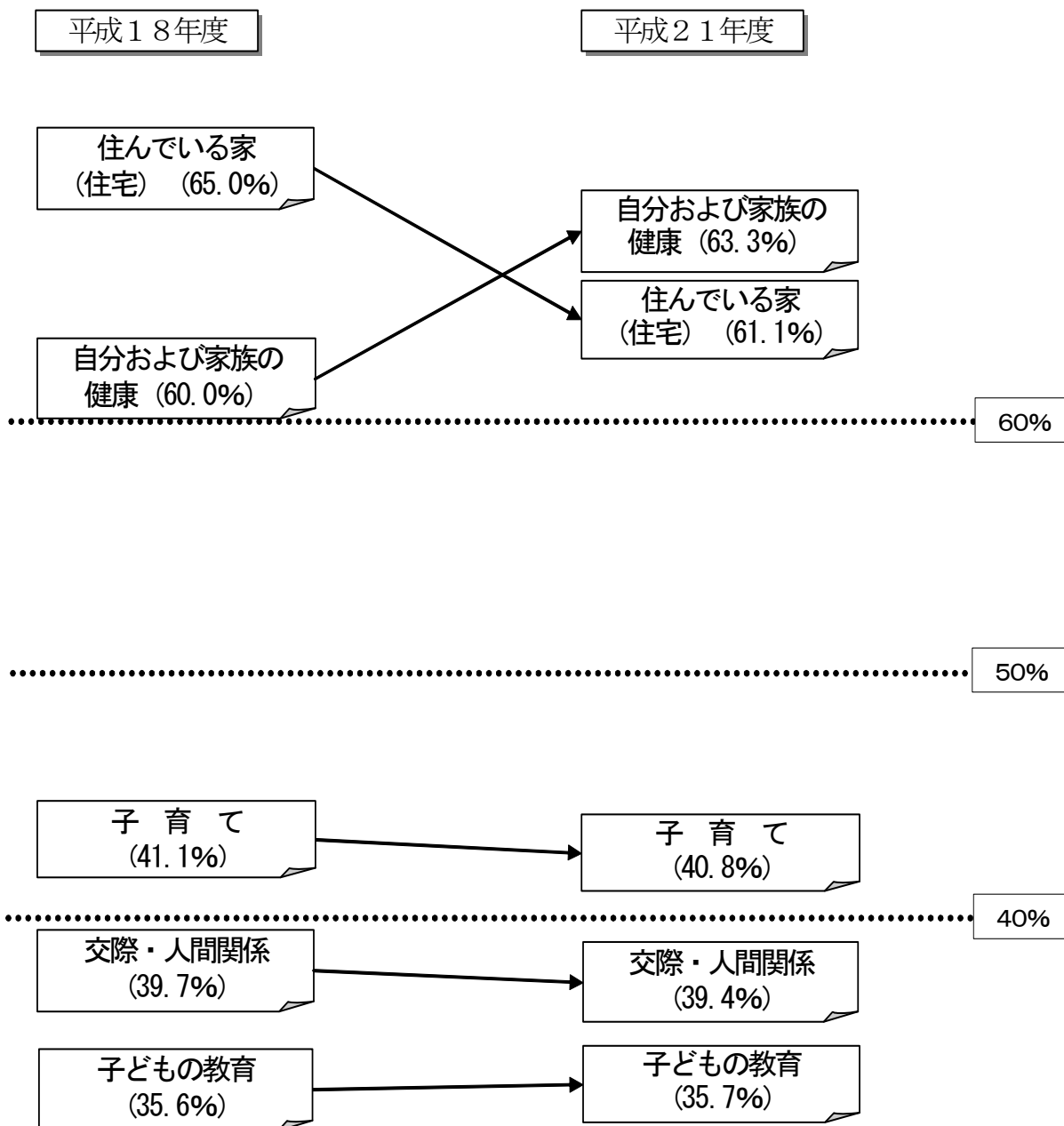
個別分野をみると、「老後・将来の生活設計」や「収入」、「娯楽・レジャー」などの不満度が高く、日常生活の総合的な満足度を低下させる要因となっていることがうかがえる。中でも「老後・将来の生活設計」は前回調査に比べ不満度が大きく増加している点が注目される。「老後・将来の生活設計」は特に“パート・アルバイト・派遣”の不満度が高いなど、近年の社会情勢や雇用情勢を反映する結果となった。

「日常生活の不満度」上位5項目の前回調査との比較



経年変化を見ると、各項目でほぼ不満度が増加しており、特に、「老後・将来の生活」については、7.1ポイントも増加しており、年金問題、医療問題、介護問題などを背景に生活における老後の不安要因が増大していることがうかがえる。

「日常生活の満足度」上位5項目の前回調査との比較



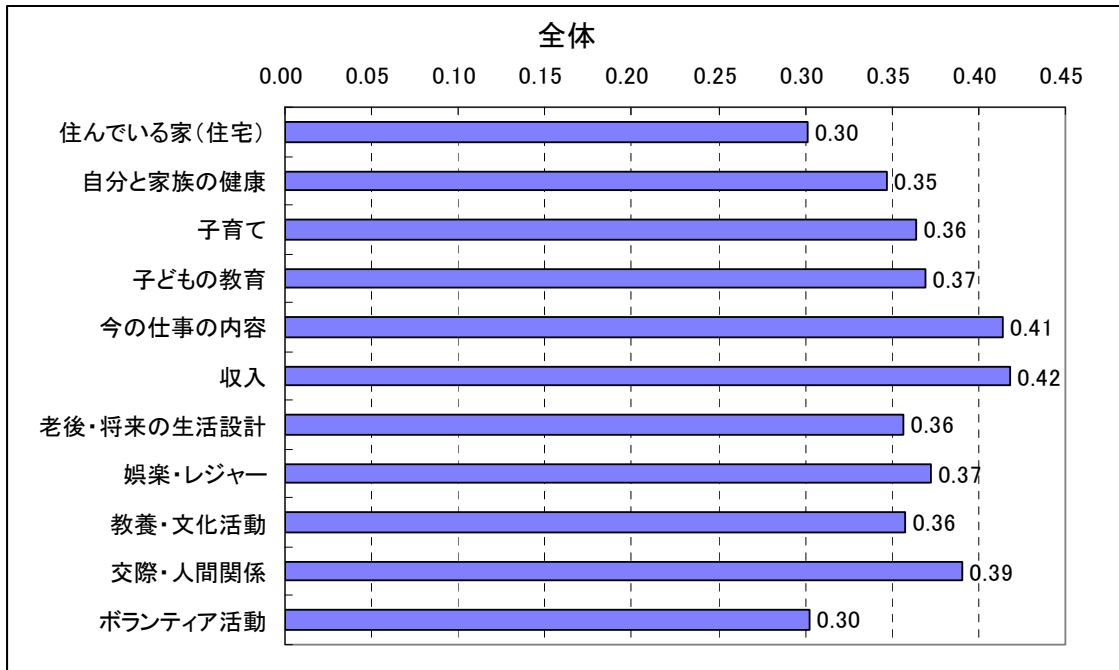
経年変化を見ると、「自分および家族の健康」の満足度が増加した。  
 「住んでいる家」は、満足度は低下しているが、依然として6割を超えている。



(分野別の満足度と日常生活の満足度との相関関係)

分野別の満足度と日常生活の満足度との相関関係をみると、全体では「収入 (0.42)」、「今の仕事の内容 (0.41)」の相関係数が高く、「住んでいる家」や「ボランティア活動」は低くなっている。

年代別でみると、10代では「子どもの教育 (0.67)」、20代では「老後・将来の生活設計 (0.53)」、30代では「収入 (0.54)」、40代では「自分と家族の健康 (0.59)」、50代では「老後・将来の生活設計 (0.47)」、60代では「教養・文化活動 (0.36)」、70代以上では「収入 (0.4)」が高いなど年代での傾向の違いが顕著である。



(年代別でみた分野別の満足度と日常生活の満足度との相関関係ベスト3)

	第1位	第2位	第3位
10代	子どもの教育	今の仕事の内容	子育て
20代	老後・将来の生活設計	今の仕事の内容	収入
30代	収入	自分と家族の健康	今の仕事の内容
40代	自分と家族の健康	今の仕事の内容	収入
50代	老後・将来の生活設計	交際・人間関係	収入
60代	教養・文化活動	娯楽・レジャー	子育て
70代以上	収入	交際・人間関係	教養・文化活動

### 3. 分野別の取り組みについて



## 雇用

現在、県では、厳しい経済、雇用情勢の中、若年者から中高年齢者までの全世代に対して、各種の就業支援に取り組んでいます。特に、高校生をはじめとする新規学卒者や若者の県内就職と定着の推進に努めているところです。

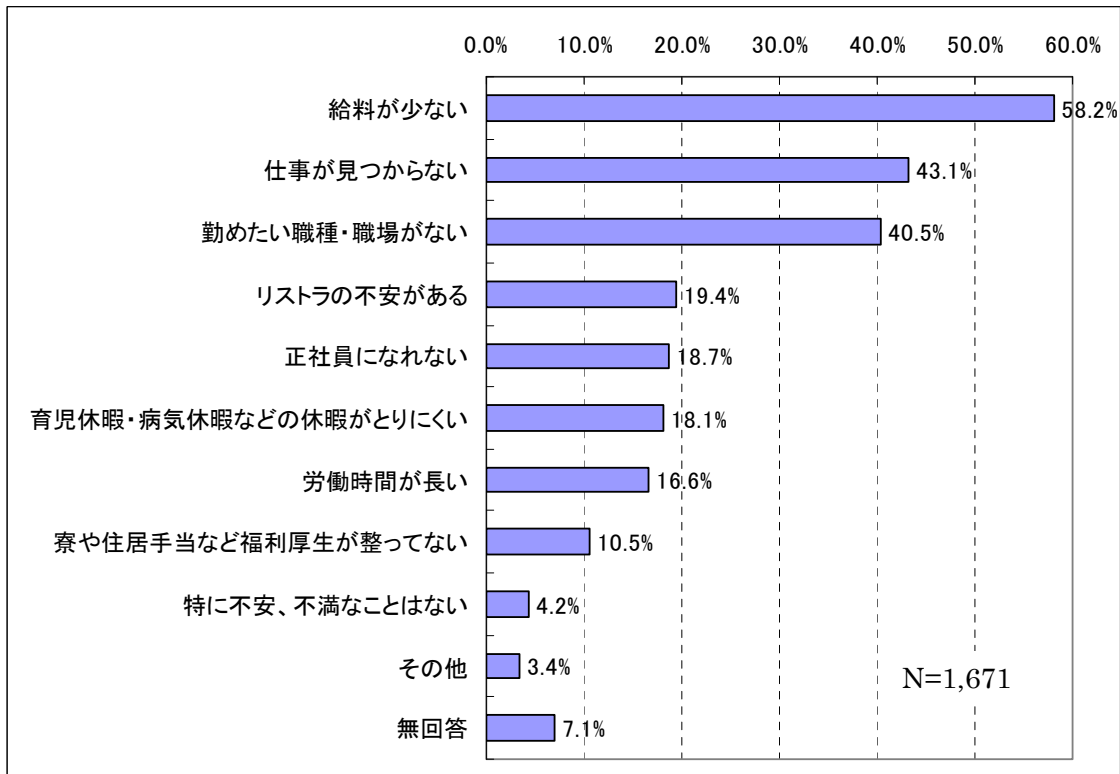
今回の調査で、雇用に関する県民の皆さまのご意見をおたずねしたところ、雇用の問題・不安は、“給料水準”や“仕事先が見つからない”などが県内全域の共通の課題になっています。

解消のためには、若者が就職したくなるような魅力ある企業の誘致や雇用の維持拡大を図るために地場企業への支援を行うことなどが求められています。

また、新しい雇用を生み出す分野として、「介護・医療・福祉」が期待されており、「農林水産業」、「新エネルギー」なども注目されています。

### Q5:雇用の問題や不安

現在、今の職場あるいは県内の雇用状況について、どのような問題や不安があると思いますか。3つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

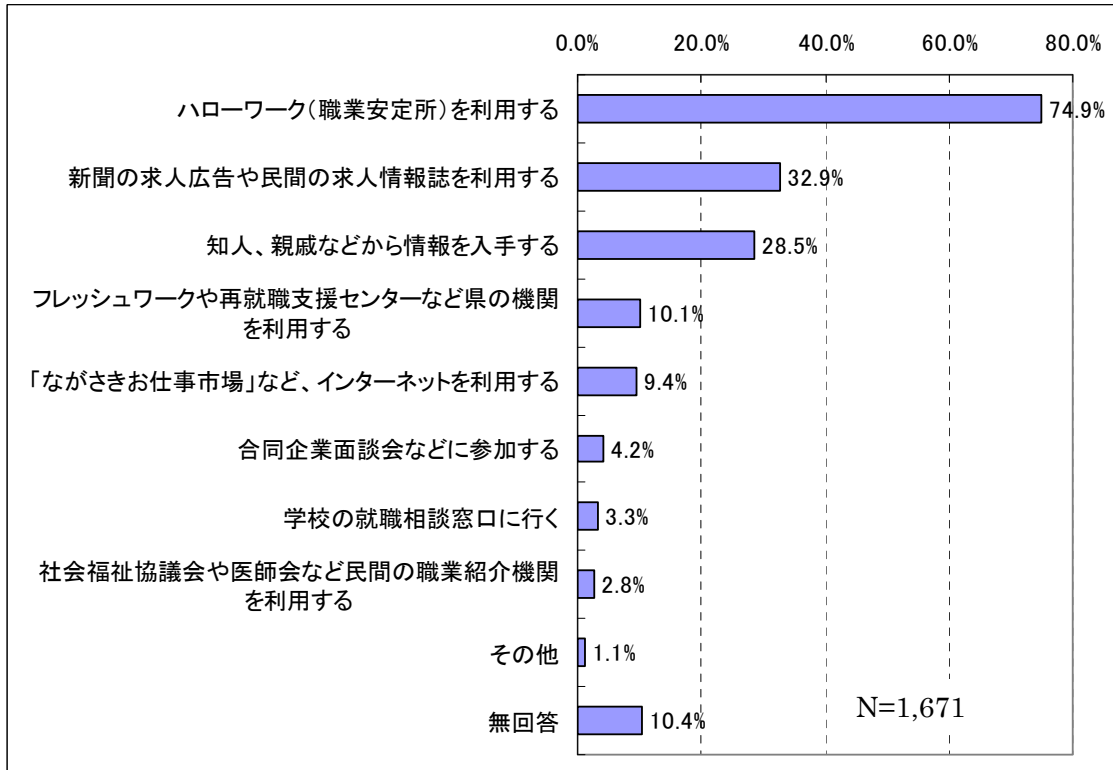
### 雇用の不安・問題は、「給料の少なさ」、「仕事の少なさ」 特に若者世代や過疎地では仕事の確保が重要課題に

雇用の不安・問題点は、「給料が少ない」、「仕事が見つからない」、「勤めたい職種・職場がない」などに多くの意見が集中している。最も意見が多かった「給料が少ない」については、20代～50代の幅広い年代層で問題点としての認識が強く、地域別でみると、県央地域、県北地域、また、職業別でみると専業主婦（主夫）、正規の従業員・職員、パート・アルバイト・派遣が問題視する傾向が確認された。これは、長引く景気の低迷により企業が給与水準の引下げや賞与の見直しなどを進めていることが背景にあると推測される。

一方、「仕事が見つからない」、「勤めたい職種・職場がない」はこれから職場を見つける10代を中心とする若者世代や、地域別でみると離島地域、島原半島地域などの一次産業を基幹産業とする地域で問題視する傾向がみられた。これらの年代層や地域では、前述した「給料の少なさ」などの働いた後の問題よりも以前に、仕事が確保できるかどうか大きな不安要因となっているなど更に厳しい現状がうかがえる。

### Q6: 求人情報の入手方法

もし、あなたが仕事を探すとすれば、主にどのような手段で求人情報を入手しますか。  
2つまで○印をつけてください。



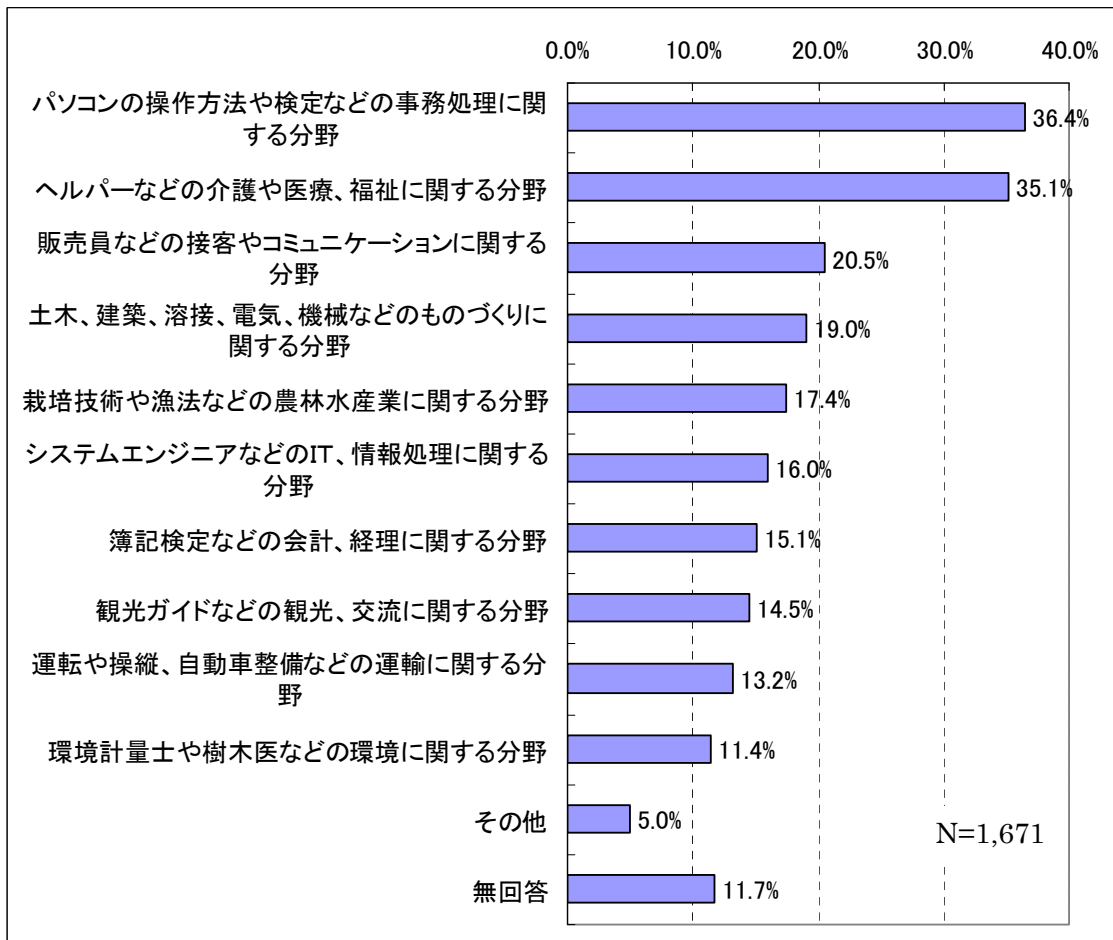
#### 【求人情報の入手先】

### 求人情報の多くは「ハローワーク」から入手。

求人情報の入手方法は、「ハローワークを利用する」が全体の4割以上と多く、性別、年代、地域、職業に大きな差がなく幅広い利用状況がうかがえる。また、離島地域では、「知人、親戚などから情報を入手する」といった“人つながり”の情報も貴重な情報入手手段となっていることが確認された。

### Q7:身につけたい技術や資格

あなたが新しい仕事を見つけたり、転職したりするとしたら、身につけたい技術や資格はどのようなものですか。3つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

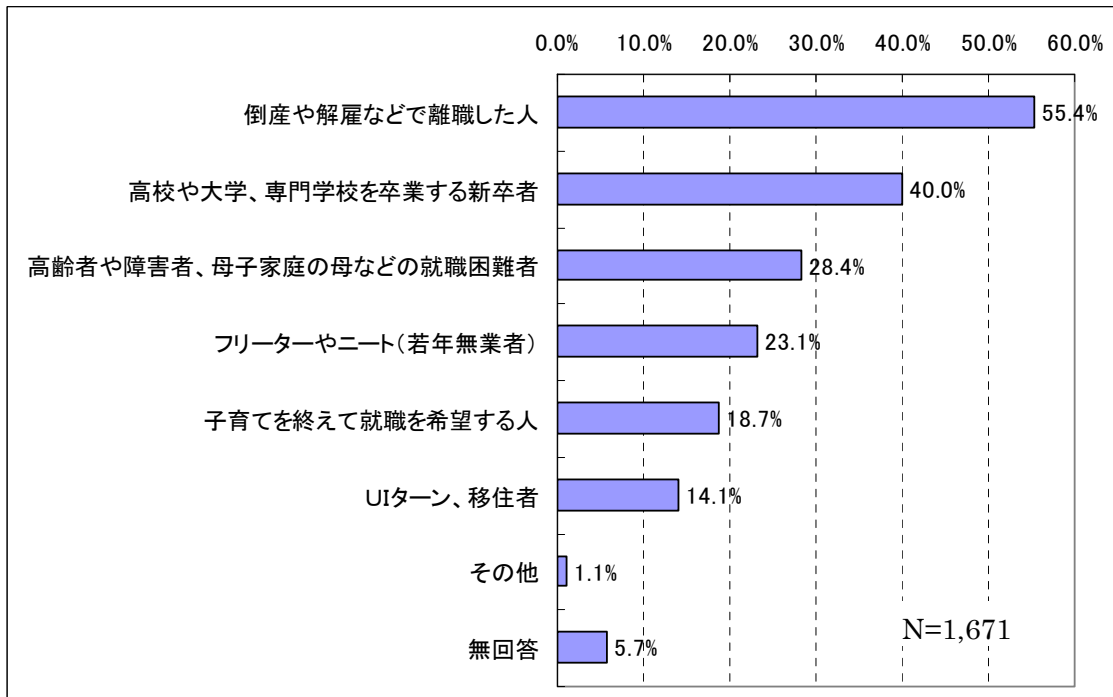
### 身につけたい技術や資格は 「パソコン、事務処理」、「介護、医療、福祉」

身につけたい技術や資格は、「パソコンの操作方法や事務処理」、「介護、医療、福祉」などの人気が高い。特に「パソコンの操作方法や事務処理」は10代、20代の“女性”を中心に、地域別では県南、県央地域で高い割合となっている。また、職業別でみると、学生やパート・アルバイトなど、これから正規の職員を目指す層において高い割合がみられる。

一方で「介護、医療、福祉」は近年の高齢化の進行から注目が集まっていると想定され、幅広い年代層の特に“女性”の支持を集めている。地域別でみると島原半島地域など、特に高齢化が進んでいる地域で割合が高くなっており、一般的にはマイナス印象が強い高齢化を反対にビジネスチャンスと捉えている傾向ともいえる状況がみられる。また、職業別でみると専業主婦の割合が特に高く、新しい職場としての期待がうかがえる。

### Q8:雇用対策のなかで特に強化すべき対象

県では、下記のような「人」を対象とした雇用対策に取り組んでいますが、今後、特に強化すべきと思われる対象は誰ですか。2つまで○印をつけてください。



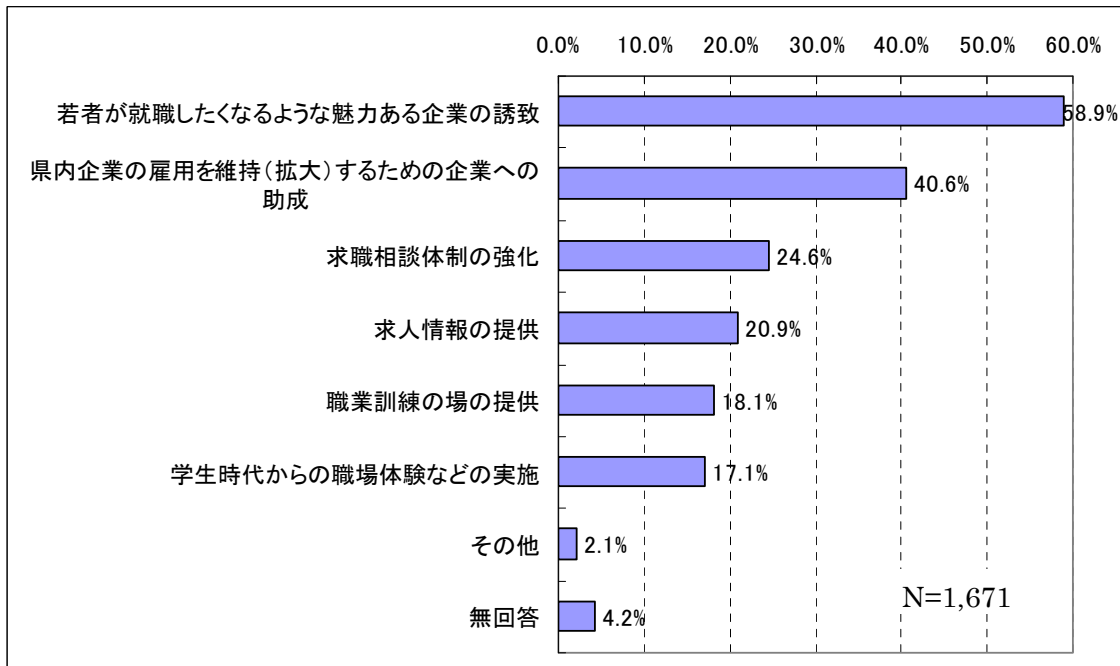
#### 【調査結果(ポイント)】

**雇用対策の対象は「倒産や解雇などで離職した人」など  
緊急性の高い人から。若者は自らへの支援を求める。**

雇用対策の対象としては「倒産や解雇などで離職した人」など緊急を要する人への支援が、性別や年代、地域、職業によらない幅広い層が重要と考えている。一方で、学生などこれから本格的に就職活動を行う世代にとっては、自らへの支援策を強く求める傾向がみられた。

### Q9:新卒者、若者向けの雇用対策

県内で就職してもらうために、新卒者、若者向けの雇用対策として、今後、県ではどのような取り組みが必要だと思いますか。2つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

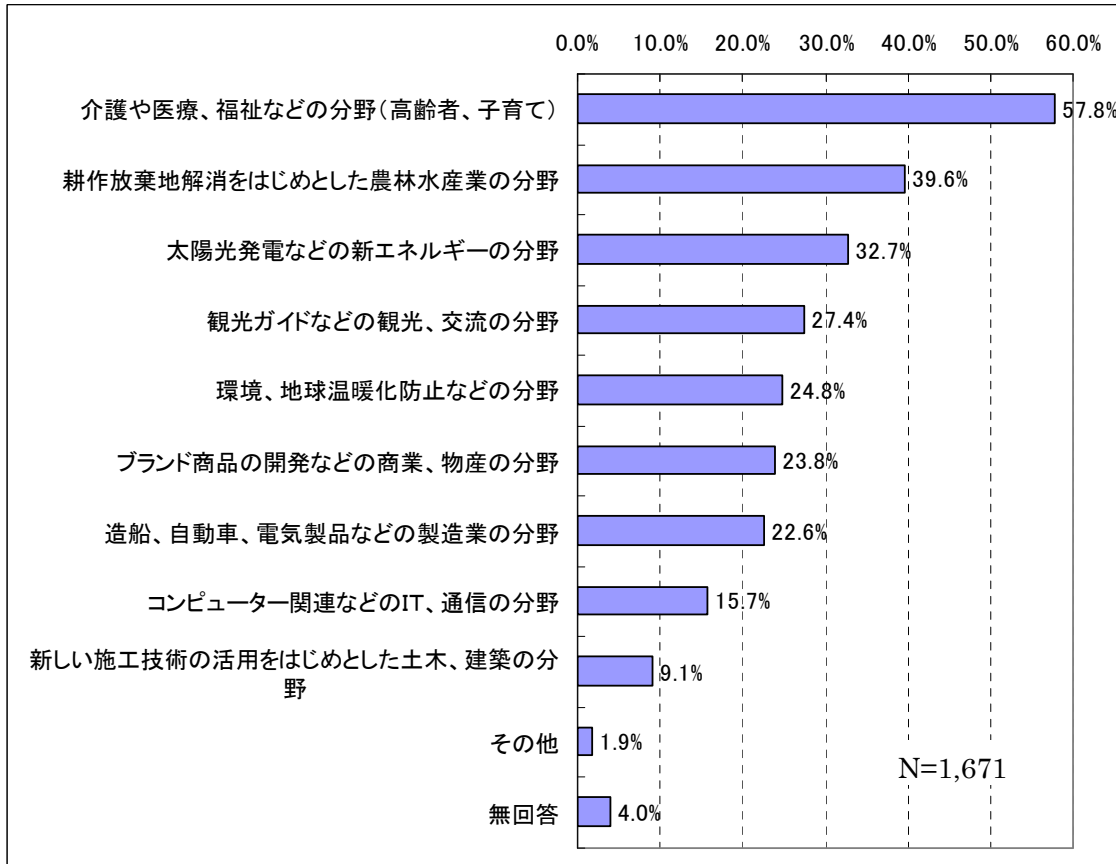
**深刻な状況にある雇用問題の解消には、  
企業誘致や地場企業への支援を求める声が多数。**

新卒者、若者向けの雇用対策としては幅広い層で「企業誘致」が最も重要視されているが、現状の雇用を維持するための企業への助成などの地場企業への支援策も重要とする意見も多い。

企業誘致については、30代から50代を中心とした幅広い世代、職業、性別で重要と考える傾向がみられ、全ての地域において重要な課題であることが確認された。一方、地場企業への支援については、30代～50代といった現役世代を中心に、特に県央地域などでのニーズが高い。

### Q10:期待される新しい雇用を生み出す分野

今後、本県において、新しい雇用を生み出す分野として期待される分野はどの分野だと思いますか。3つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

**新しい雇用を生み出す分野として期待されるのは「介護、医療、福祉」。「農林水産業」や「新エネルギー」にも注目。**

新しい雇用を生み出す分野としては、「介護、医療、福祉」は幅広い年代層に支持を得ており、特に産業基盤が弱い離島地域や島原半島地域では高い期待がうかがえる。

一方で、年代別でみると、高年代は「農林水産業」などを期待する傾向があり、反対に若い世代は「観光、交流の分野」などを期待するなど、年代別で異なる傾向が確認された。





## 観光・交流人口の拡大

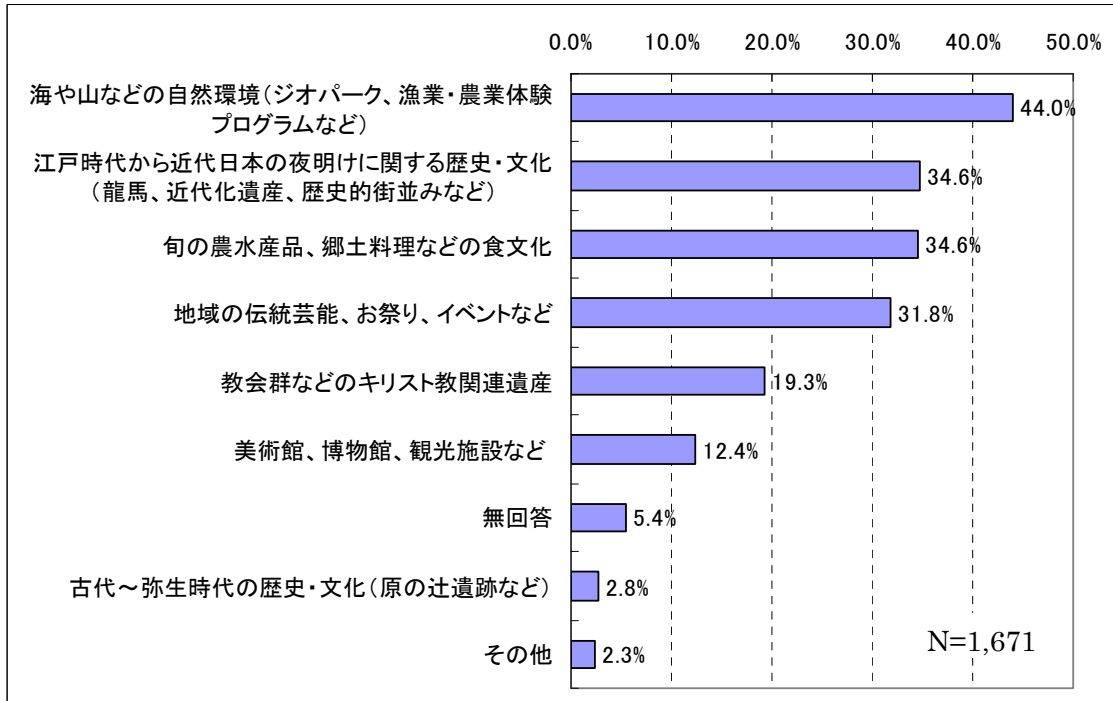
県では、観光の振興による交流人口を拡大するため、県内各地の観光PRや国内外からの誘客活動、市町が実施する観光地づくりの支援、長崎県総おもてなし運動などの取り組みをおこなっています。

今回の調査で、地元の観光資源の活用や離島地域へ観光する場合の動機・要因などに関する県民の皆さまのご意見をおたずねしたところ、活用すべき観光資源は、ハードではなく、各地が持つ自然環境、漁業・農業体験プログラム、歴史・文化、食、郷土芸能などの地域資源であり、年代層にあわせた活用方策の検討が必要ということがわかりました。

また、最も身近なマーケットである県民のうち回答者の7割は、県内旅行をしていない未開拓層であるため、厳しい経済情勢を逆手にとり、“安・近・短(安い、近い、短い)”の県内旅行に県民をどのように取り込んでいくかも課題のひとつであると考えられます。

### Q11:活用すべき観光資源

長崎県、お住まいの市町の観光資源として、今後、観光客の増加や交流人口の拡大を図るためには、何を最も活用すればよいと思いますか。2つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

### 自然環境、歴史・文化、食、郷土芸能など 多様な地域資源の活用が必要

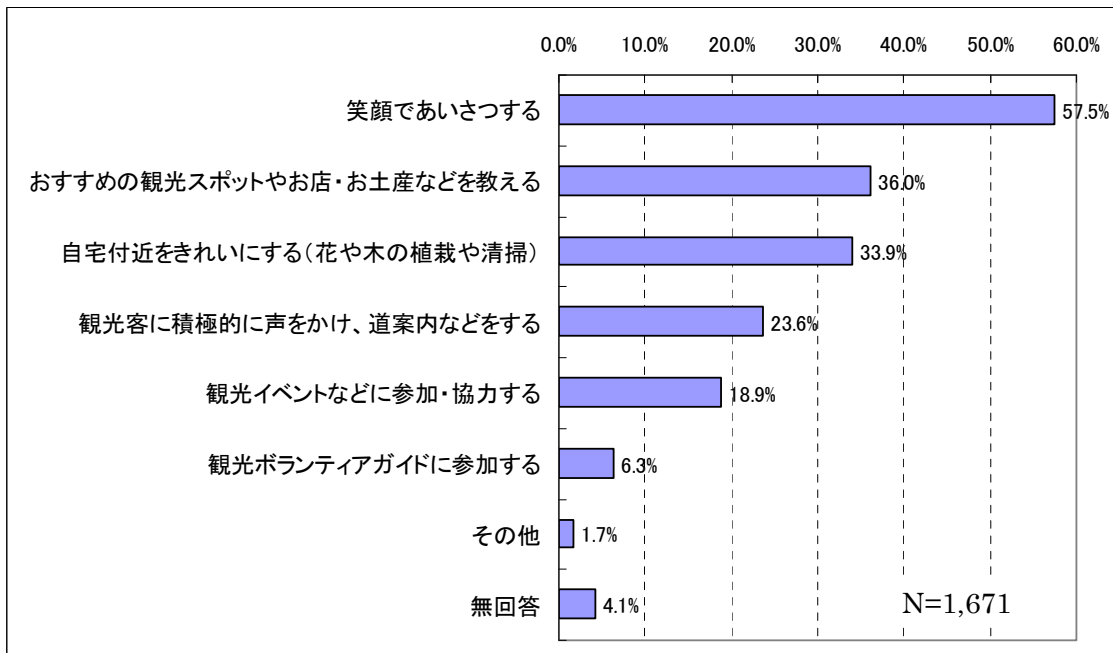
観光振興や交流人口の拡大のために活用すべき観光資源を尋ねたところ、「自然環境、漁業・農業体験プログラム」、「歴史・文化」、「食文化」、「郷土芸能、イベント」など、観光施設などの“箱モノ”ではなく、地域固有の資源を活用すべきとの声が多くみられた。

年代別でみると、自然環境は特に中高年代の支持が高く、一方で、若い世代は郷土芸能やお祭り、イベントなど“一過性”の取り組みに対する支持が高い傾向がみられた。

また、地域別でみると、豊かな自然環境を背景に農水産業が盛んな島原半島地域や離島地域では自然環境を活かした体験プログラムなどを求める傾向が強い。一方で、幕末などの歴史文化資源が豊富な県南地域、県央地域では、近代日本の夜明けに関する歴史文化を活用したいという意見が多いなど、地域固有の“強み”を活用したいという意識がうかがえる。

### Q12:観光客に対する「おもてなし」として取り組めること

交流人口の拡大を図るためには、観光客に対する「おもてなし」など各地域での取り組みが重要となります。あなた自身、取り組めることは何ですか。2つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

### “笑顔であいさつ”など気軽に取り組めることからスタート

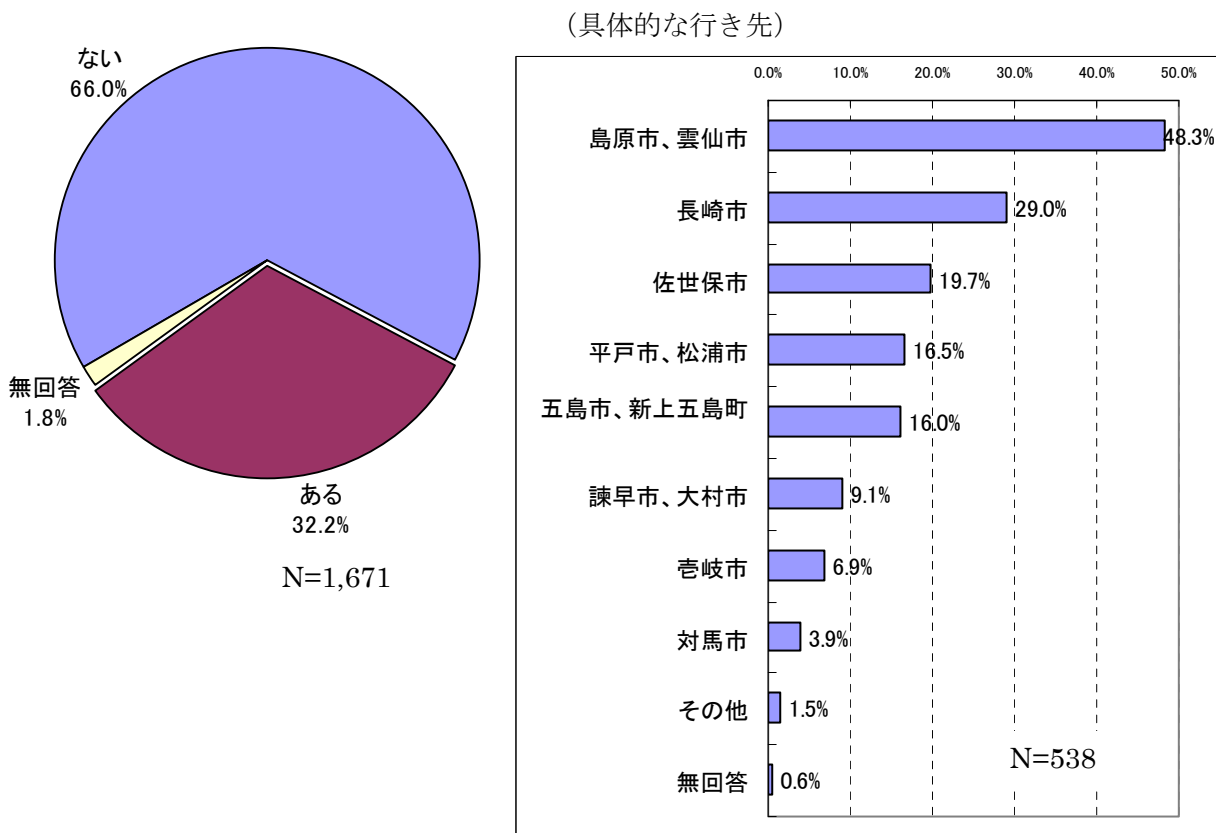
観光客に対する「おもてなし」として取り組めることを尋ねたところ、「笑顔であいさつする」といった“気軽”に取り組めるものが、年代、地域を問わず高い割合となっている。

また、「自宅付近をきれいにする」は年代が高くなるにつれて割合も高く、「観光イベントなどに参加・協力する」は反対に若い年代ほど割合が高くなる傾向がみられた。

“あいさつ”は共通の取り組み、そして、年代に応じて自らが取り組めることに積極的に組むという意識の高さが確認された。

### Q13:過去1年間における県内の宿泊旅行の有無

あなたは、過去1年間に県内で宿泊をとまなう旅行をしたことがありますか。旅行をしたことがある人は、該当するもの全てに○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

**“県内旅行をしたことがある”はおよそ3割。  
残り7割は開拓可能な市場。**

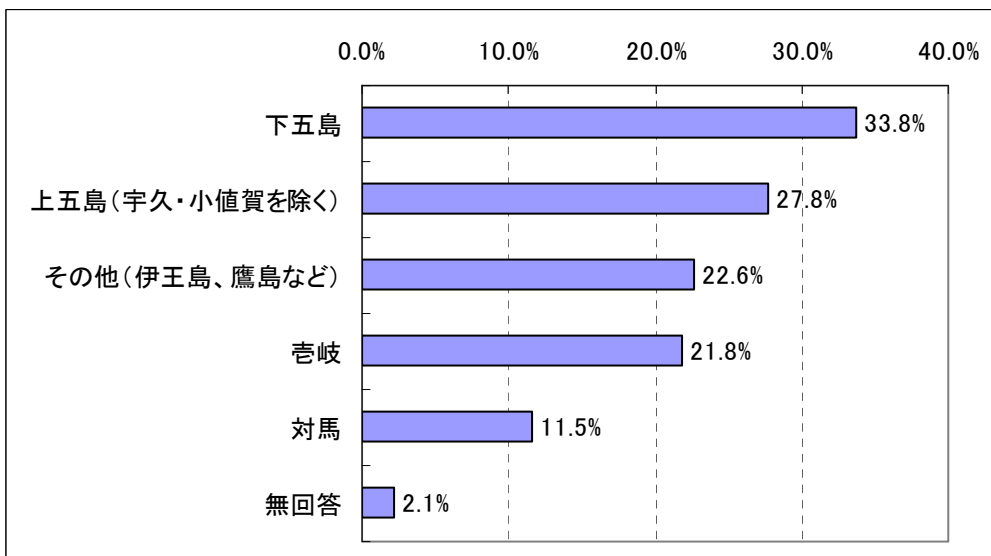
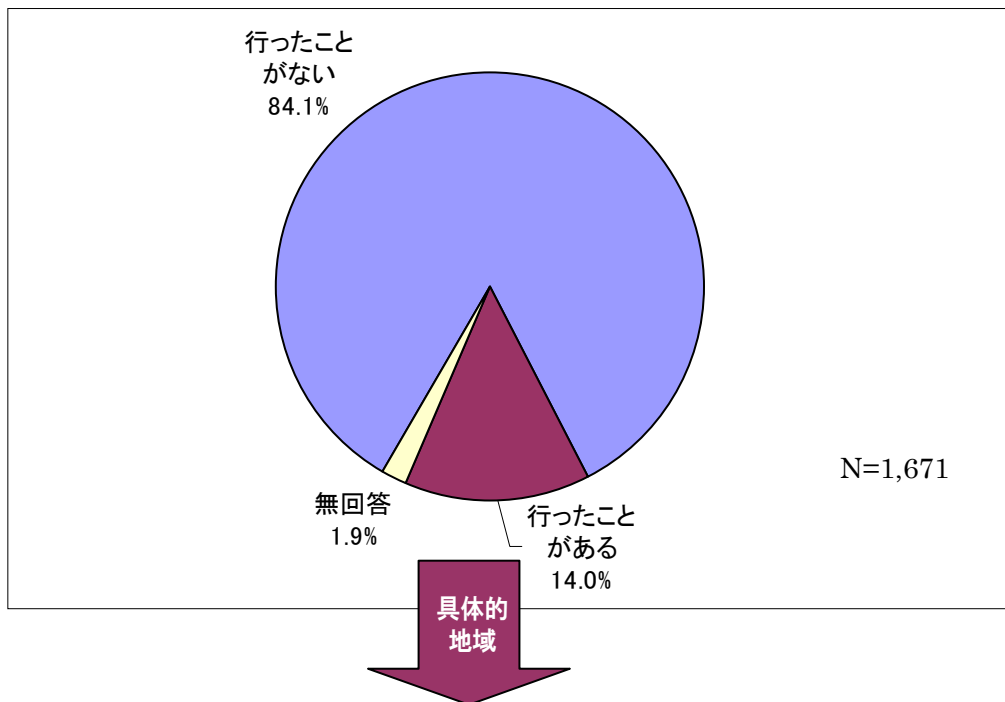
過去1年間における県内の宿泊旅行の有無を尋ねたところ、“県内旅行をしたことがある”は32%、という低い割合であった。この結果は、単に県民の県内での旅行頻度が少ないという悲観的な状況だけではなく、残り7割以上は今後の開拓市場になりえるとも捉えることができる。

“安・近・短（安くて、近くて、短い期間の旅行）”の旅行が求められる近年においては、身近な県内市場をどのように開拓していくかが今後の観光振興のポイントの一つになるといえる。

なお、県内旅行の旅行先をみると、全体的には、島原半島や長崎市を訪れる割合が高く、島原半島は特に高年代、長崎市は若い世代など年齢による傾向の違いもみられる。一方、離島地域の旅行先をみると、下五島、上五島、壱岐、対馬の順となっている。

**Q14: 過去1年間における県内離島地域への観光旅行の有無**

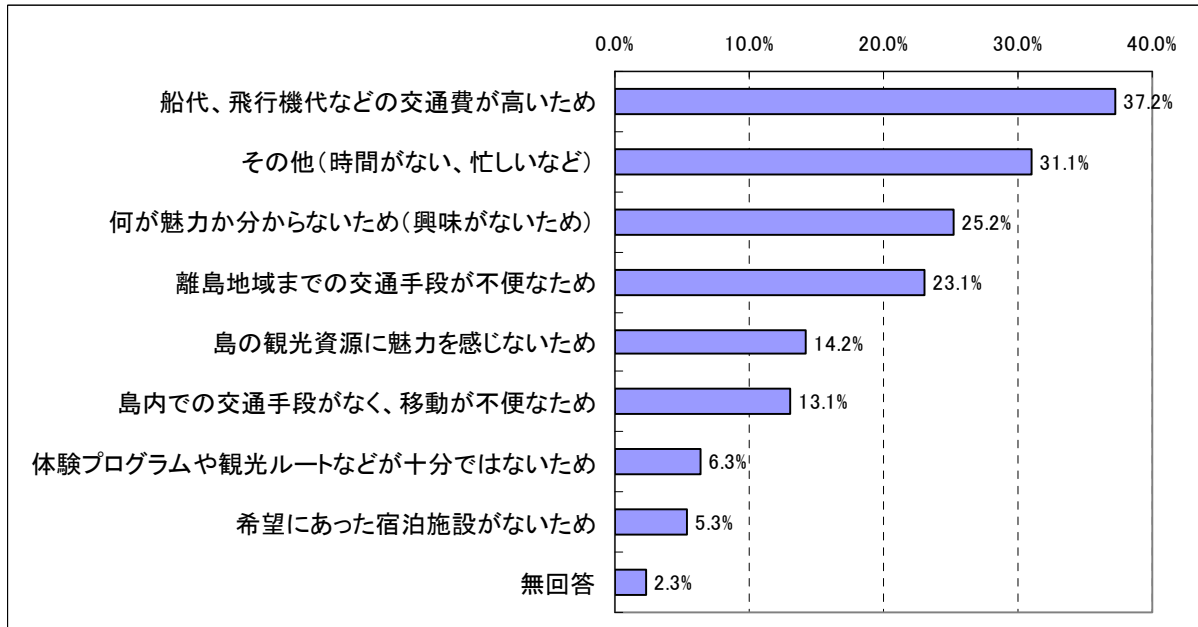
あなたは、過去1年間に観光目的で県内の離島地域に行ったことがありますか(日帰り旅行を含む)。行ったことがある人は、該当するもの全てに○印をつけてください。



### Q15: 県内離島地域へ観光に行かない理由

(Q14で「行ったことがない」と回答した方にお聞きします。)

長崎県内の離島地域に観光目的で行かない主な理由はなんですか。2つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

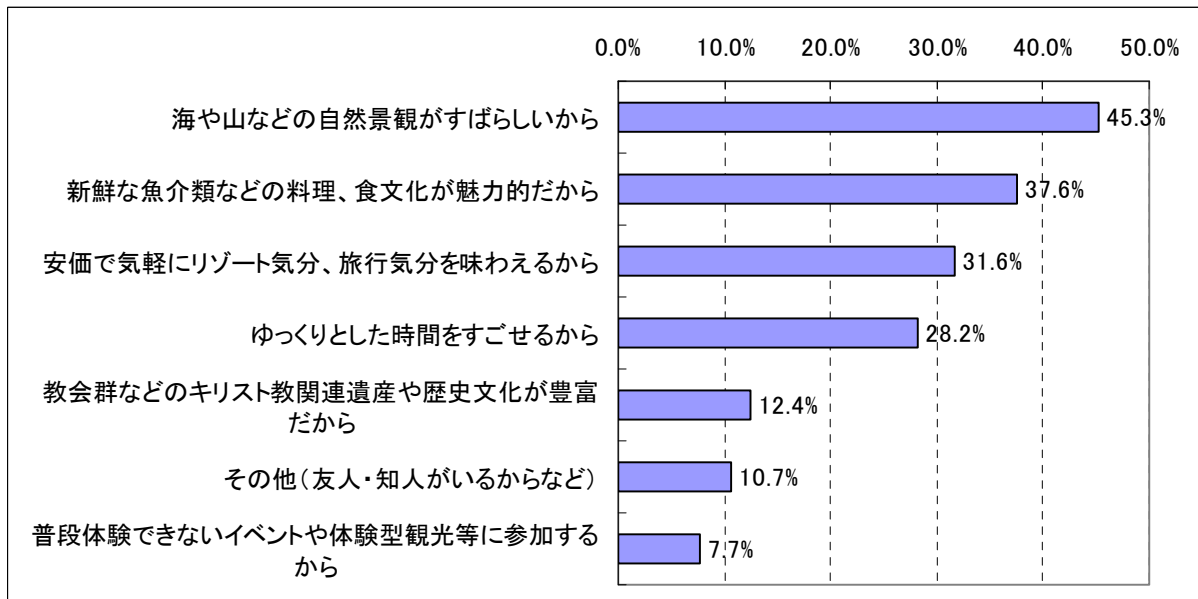
### 高い交通費や不便な移動手段など、交通問題がネックに 若者は離島観光そのものに関心が希薄な傾向も

県内離島地域に行かない理由は、「交通費が高いため」が最も多く、特に、経済的なハンディを抱えている10代や子育て等で出費が増えてくる30代を中心に、大きな障壁になっていることがうかがえた。それと同時に若い世代は、離島観光そのものに関心が希薄である傾向もみられた。

一方、高年代にとっては、「離島地域までの交通手段が不便なため」、「島内での交通手段がなく、移動が不便なため」など、いずれにしても交通手段が大きなネックになっていることがうかがえる結果となり、年代を問わず“交通問題”が解消すべき課題の一つである結果となった。

### Q16: 県内離島地域を訪れる目的・理由

長崎県内の離島地域を訪れる目的・理由は何ですか。2つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

### “自然”、“食”、“リゾート気分”など本土にはない魅力が人気

県内離島地域を訪れる理由は、全体的には「自然景観が素晴らしい」、「食文化が魅力的だから」、「安価で気軽にリゾート気分を味わえるから」の順となっているが、年代別で見るとやや異なる傾向がみられる。

10代は「安価で気軽にリゾート気分、旅行気分を味わえるから」、「海や山などの自然景観が素晴らしいから」など、“料金”や“リゾート感覚”などを重視する傾向にある。

30代、40代は「ゆっくりとした時間をすごせるから」など“時間”を重視する傾向、50代以上になると「海や山などの自然景観が素晴らしいから」、「新鮮な魚介類などの料理、食文化が魅力的だから」など、“自然”や“食文化”などを重視する傾向が強いなど、年代ごとの生活スタイルが反映される結果となった。



## 長崎県産品

県では、優れた農水産物を中心に長崎県産品の県外における知名度向上と販路拡大を図るため、首都圏等の百貨店・高級スーパーの店頭やマスコミ等を活用して県産品の良さや特徴をPRしています。

また、県民の皆様をはじめ県内における県産品の愛用促進と消費拡大を図るため、県産品愛用運動などを実施しています。

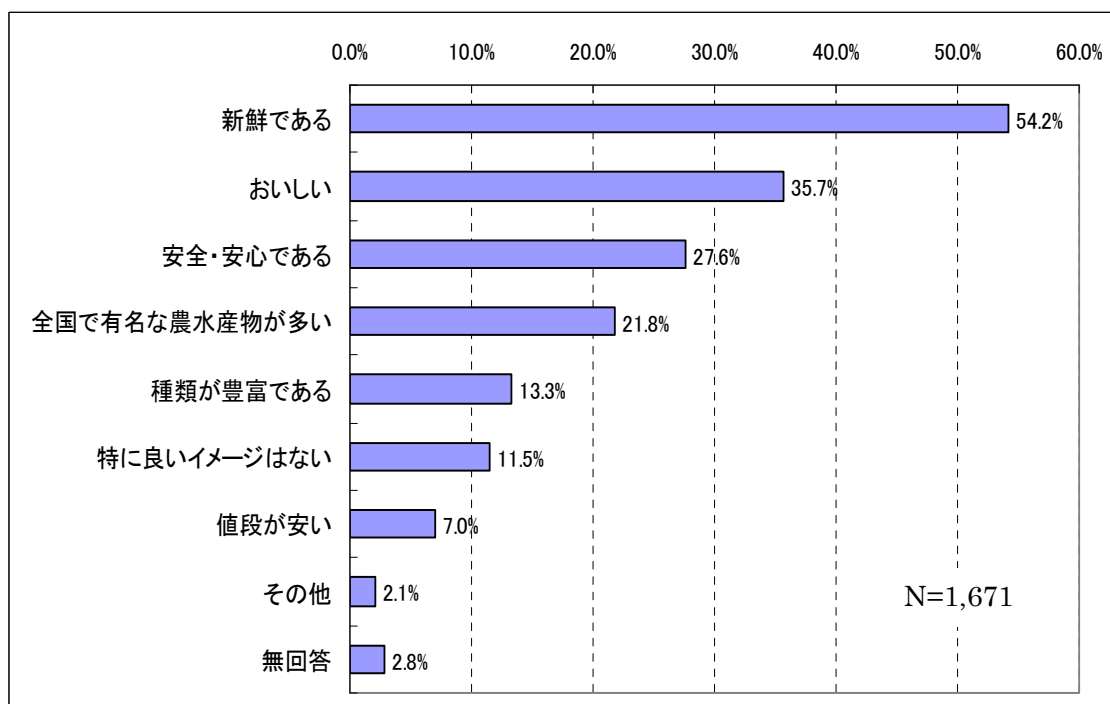
今回の調査では、食の安全、安心が求められる社会情勢の中、長崎県産品は県民の評価が非常に高いことがわかりました。

今後は、地域産品の掘り起こしとブランド化を図り、値段以上の付加価値をいかに構築し、発信、販売できるかがポイントであると考えられます。また、将来を見据え、若い世代に県産品の価値を発信していくことも重要な課題のひとつであると考えられます。



### Q17:長崎県の県産品のイメージ

あなたは長崎県の県産品について、他県と比べてどのようなイメージをお持ちですか。  
2つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

**“新鮮”、“おいしい”、“安全・安心”などプラスイメージ。  
若い世代は“特に良いイメージはない”も**

長崎県の県産品のイメージを尋ねたところ、「新鮮」、「おいしい」、「安全・安心」がベスト3に入るなどいずれもプラスイメージが強いことがうかがえる。

特に、「新鮮」については高年代の支持が高く、反対に「おいしい」については若い世代で高い支持となっているなど異なる傾向もみられた。

一方で「特に良いイメージはない」というマイナスイメージは、全体では9項目中6番目の下位にあるが、10代、20代では平均を6ポイントから9ポイント以上、上回るなど他の年代層よりも高い割合がみられる。

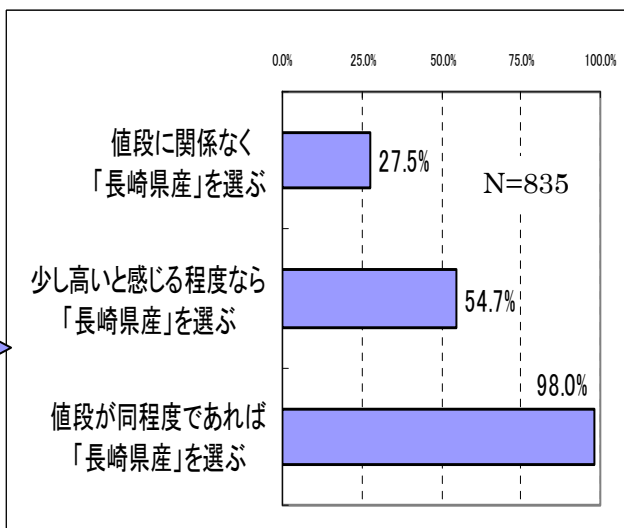
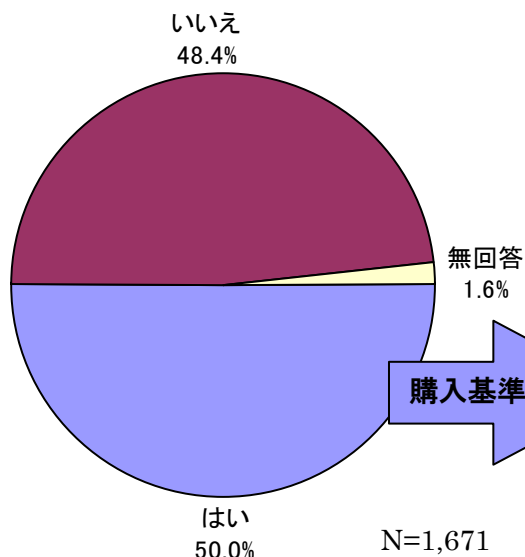
**Q18:長崎県産であることを重視して買い物するか。**

あなたは、買い物をする際、品物が長崎県産であることを重視していますか。該当するものに○印をつけてください。

**Q19:その際の購入基準。**

(Q18で「はい」と回答した人にお聞きします。)

あなたが県産品を購入する際の基準はどれですか。該当するものに1つ○印をつけてください。



**【調査結果(ポイント)】**

**半数が“重視して買物をする”  
購入層の5割以上は他県産等よりやや値段が高くても購入**

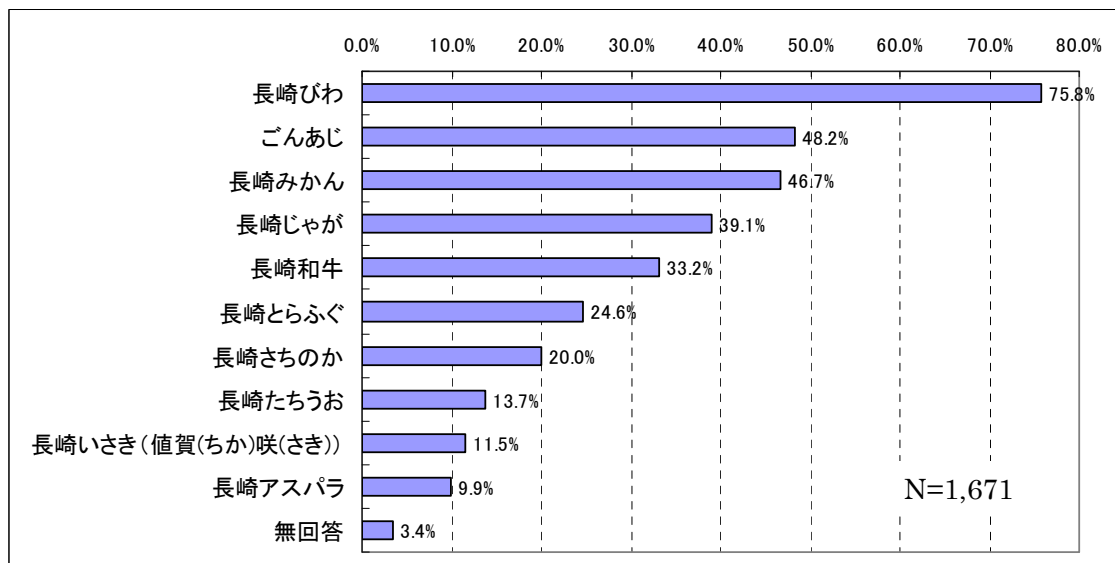
長崎県産品であることを重視して買物するかを尋ねたところ、“重視している”は全体で50%に上るなど高い割合となった。特に高年代ほど重視する傾向が強く、70代以上にいたっては65%が重視している結果となった。

一方で、10代から40代までは平均を下回るなど意識の違いがみられる。

地域別でみると、平均を上回っている地域は、時津町、東彼杵郡、大村市、五島市、新上五島・小値賀町、西海市、諫早市、雲仙市などであり、傾向的にはニューファミリー層が多い地域や、農水産業が盛んな地域の割合が高い傾向がある。しかしながら、同じ離島でも対馬市や壱岐市などの福岡圏域とのつながりが高い離島では平均を下回る傾向がみられる。

### Q20:長崎県のブランドとして、県外に出して自慢できる商品

あなたから見て、長崎県のブランドとして、県外に出して自慢できる商品だと思うものはどれですか。該当するもの全てに○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

**全体では“長崎びわ”がN01  
地域別では、長崎じゃが、長崎みかんなどを推す声も**

長崎県のブランドとして県外に出して自慢できる産品を尋ねたところ、全体では「長崎びわ」が2位の「ごんあじ」を27ポイント以上、上回り1位となっている。

支持層は年代別では10代、20代を中心とした若い年代から高年代まで幅広く、地域別でも島原半島地域を除く全ての地域でトップであるなど、全体的に高い支持であることがうかがえる。

一方で、島原半島地域では地域産品である「長崎じゃが」がトップであったのははじめ、県南地域では「ごんあじ」、県北地域では「長崎みかん」などの割合も高い傾向がみられた。



# 農林水産業

農林水産業においては、担い手の減少や高齢化、農水産物価格の低迷など、これまでの課題に加え、食の安全・安心や消費者ニーズの多様化など新たな課題への対応も求められています。

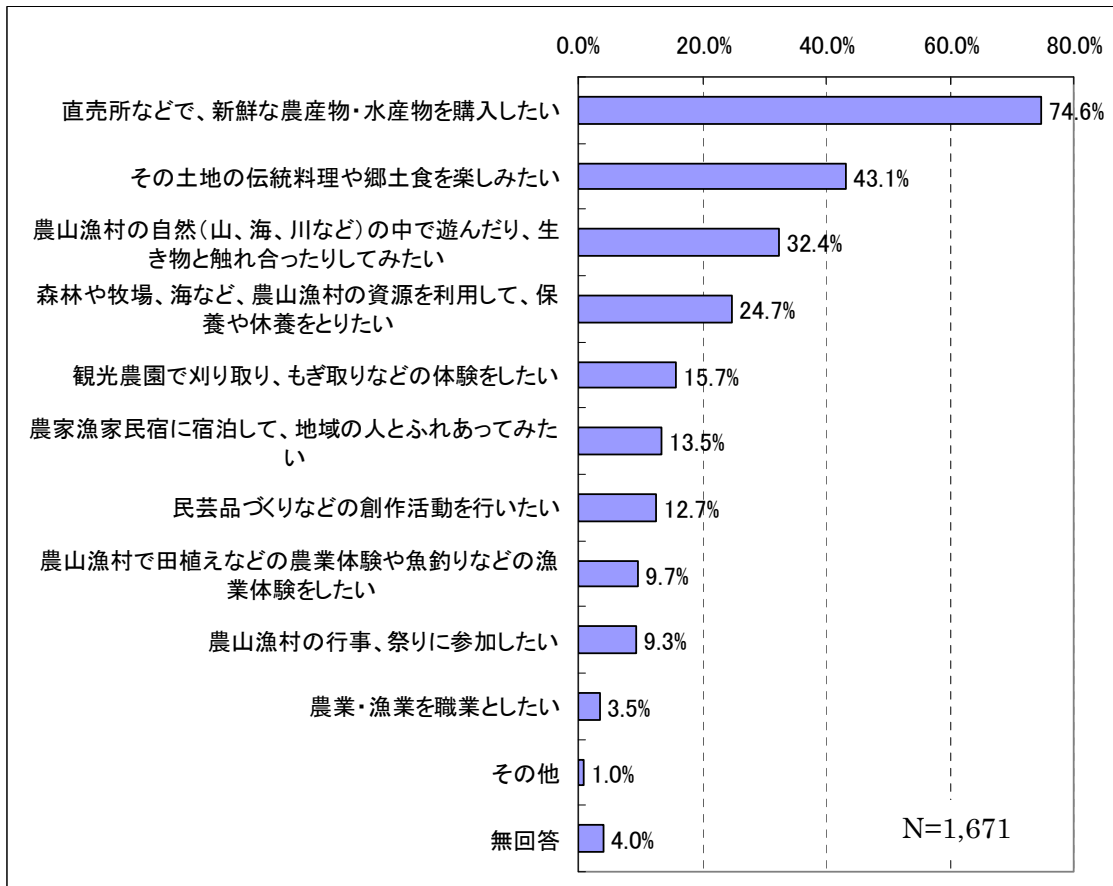
このような中、県では、農林水産業に携わる方の所得の向上や農山漁村の活性化を図るため、担い手の確保・育成や農林水産業経営の強化に向けた技術指導、県産農林水産物の販路拡大などの取り組みを積極的に行っています。

今回の調査では、後継者育成が県内全域の共通の課題となっており、支援を期待する声が多いことがわかりました。今後の農林水産業に対しては、基盤整備などのハード面だけでなく、「地産地消、販路拡大」、「直売等による交流拡大」などのソフト面の支援、さらには地理的に不利な地域における農林水産業への支援が期待されていることもわかりました。

また、農山漁村との交流に期待することは「直売所での製品の購入」や「食文化の体験」、「自然体験」など、日常と非日常が融合した“体験”を通じた交流が重要であることがわかりました。

### Q21:農山漁村との交流の中で行いたいこと、参加したいこと

あなたが農山漁村との交流の中で行いたいこと、参加したいことはどのようなことですか。3つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

### 「直売所などで、新鮮な農産物・水産物を購入したい」が他を圧倒 若い世代は“自然体験”、高年代は“食文化”などを楽しみたい声も

農山漁村との交流の中で行いたいこと、参加したいことを尋ねたところ、全体では「直売所などで、新鮮な農産物・水産物を購入したい」が2位の「伝統料理や郷土食を楽しみたい」を32ポイント程度上回りトップとなっている。

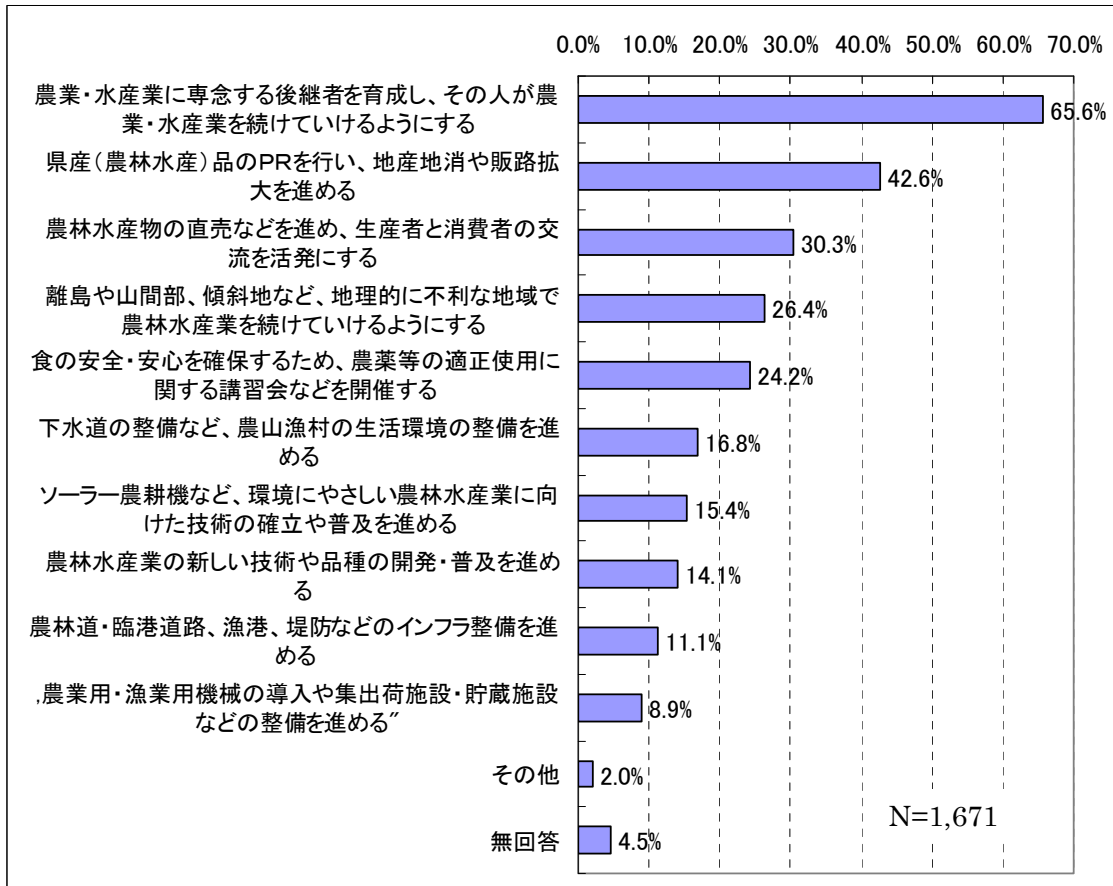
属性別で見ると、全ての年代層で最も高い割合となっており、地域別でも、離島地域を含む全ての地域で最も高い割合となっているなど、幅広い年代層、地域で支持されている傾向がうかがえる。

一方で、10代、20代などの若い世代は「自然の中で遊んだり、生き物と触れ合ったりしてみたい」の割合が高く、自然体験を求める傾向も確認された。

居住年数別で見ると、全ての居住年数で「直売所などで、新鮮な農産物・水産物を購入したい」の割合が最も高く、特に5年未満の割合が最も高い。また、「農山漁村の自然(山、海、川など)の中で遊んだり、生き物と触れ合ったりしてみたい」は、居住年数が短いほど割合が高くなる傾向がみられる。

## Q22: 県内の農林水産業に対して支援していくべきこと

今後、長崎県は、県内の農林水産業に対して、どのような支援をしていくべきだと思いますか。3つまで○印をつけてください。



### 【調査結果(ポイント)】

**期待する支援策は「後継者育成」がトップ。  
「地産地消、販路拡大」、「直売等による交流の拡大」などソフト面を期待**

県内の農林水産業に対して支援していくべきことを尋ねたところ、全体では「後継者育成」が最も割合が高く、特に高年代ほど高い割合となる傾向がみられた。また、後継者育成は全ての地域で大きな割合の格差はないなど、長崎県全体の課題であることがうかがえる。

一方で、「インフラ整備」、「機械導入、集出荷施設などの整備」などハード面の支援策は5%未満の低い割合にとどまっている反面、「地産地消、販路拡大」、「直売等による交流の拡大」などのソフト面の支援、さらには「地理的に不利な地域で農林水産業を続けていけるようにする」を必要とする意見が多いなど、“生産”に加えて、“流通”、“交流”などが今後のキーワードであることがうかがえる。



# 子育て支援

県では、平成20年10月、長崎県子育て条例を制定し、県民総ぐるみで、子どもが夢と希望を持って健やかに成長できる環境を整備し、安心して子どもを生み育てることのできる社会の実現をめざしています。

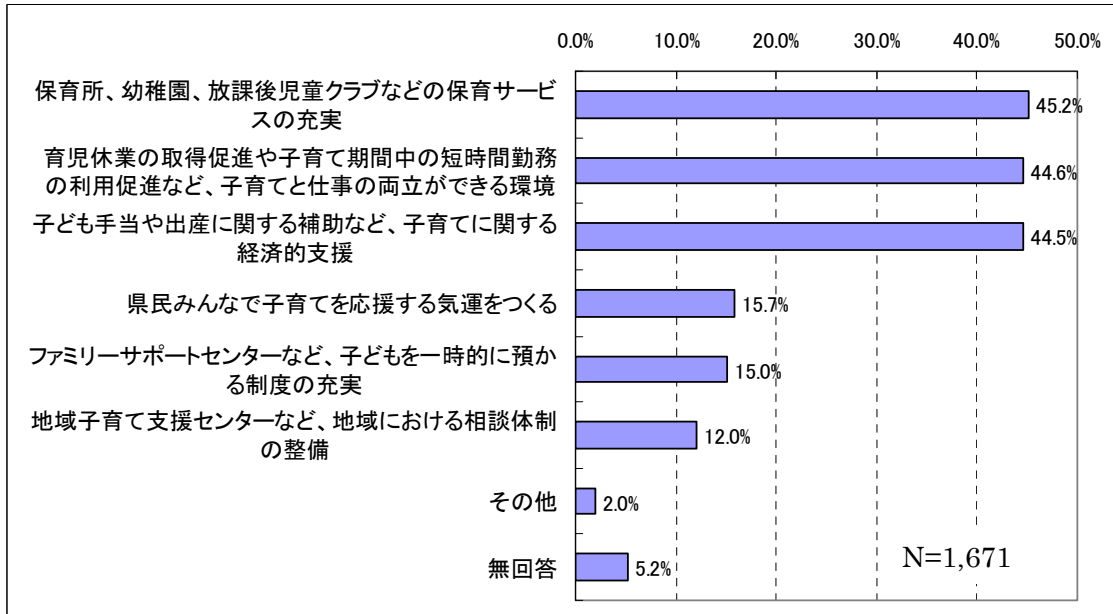
現在、少子化、核家族化、地域における人間関係の希薄化などにより家庭や地域の教育力の低下が心配されていますが、子どもの健やかな成長にとって家族の果たす役割は大きいものがあります。

今回の調査では、「保育サービスの充実」、「子育てと仕事の両立ができる環境の推進」、「子育てに関する経済的支援」などの子育て支援サービスと子育て費用へのバランスの取れた総合的な支援策が期待されていることがわかりました。

また、全体の8割が“家庭の教育力が低下している”と認識している中で、親の関わりあいに加えて、多様なふれあいによるたくましい子どもを育てる環境づくりが課題のひとつであると考えられます。

### Q23: 今後、県が力を入れて進めるべき子育て支援の施策

今後、県が進める子育て支援の施策の中で、どれに力を入れていくべきだと思いますか。2つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

### 子育て支援サービスと子育て費用への バランスの取れた総合的な支援策を期待

今後県が力を入れるべき子育て支援の施策を尋ねたところ、全体では「保育所、幼稚園、放課後児童クラブなどの保育サービスの充実」、「子育てと仕事の両立ができる環境の推進」、「子育てに関する経済的支援」の3項目がいずれも45%程度で高い割合となっており、子育て支援サービスと子育て費用へのバランスの取れた総合的な支援策を期待していると考えられる。

年代別でみると、特に子育てとの関係が深いと想定される若い世代は、「子育てに関する経済的支援」、「子育てと仕事の両立ができる環境の推進」を求める傾向が強く、高年代は「県民みんなで子育てを応援する気運をつくる」を求めるなどやや異なる傾向がみられる。

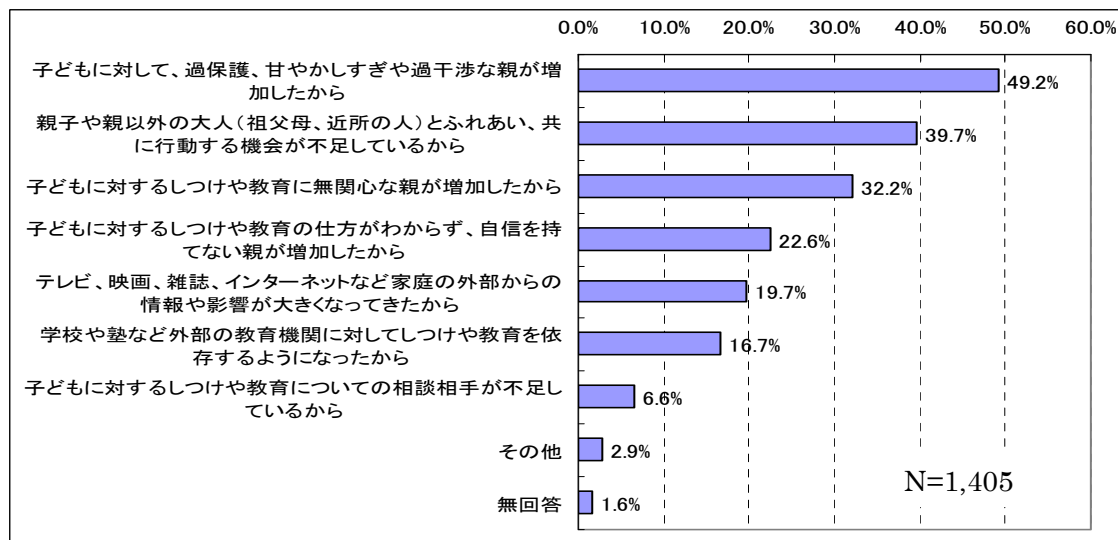
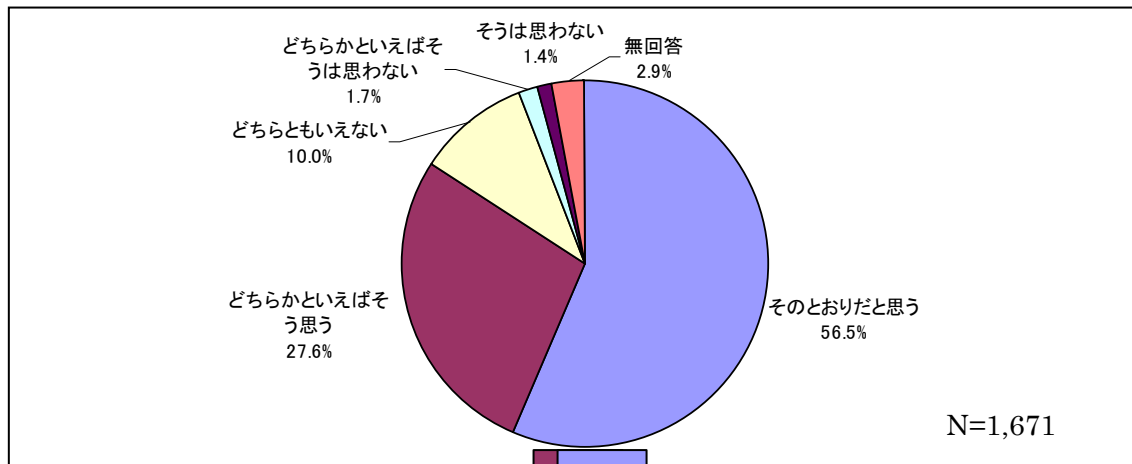


**Q24: 家庭の教育力が低下しているのではないか。**

家庭教育や子育てのあり方について、最近、子どもに基本的な生活習慣をつけるなどの家庭の教育力が低下しているのではないかという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。該当するものに1つ○印をつけてください。

**Q25: 家庭の教育力が低下した理由。**

家庭の教育力が低下した理由はどこにあると思いますか。2つまで○印をつけてください。



**【調査結果(ポイント)】**

**8割以上が“低下している”と認識  
その理由は、「過干渉」、「ふれあい機会の不足」など**

家庭の教育力が低下していないか尋ねたところ、全体では「そのとおり」が57%で過半数を超える高い割合となり、特に年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられた。その理由については、「過保護、甘やかしすぎや過干渉な親が増加したから」が最も割合が高く、特に20代から40代の実際に子育てに携わっている年代の割合が高いことに特徴がある。

親の関わりあいに加えて、多様なふれあいによるたくましい子どもを育てる環境づくりが課題であると考えられる。



# 医療

現在、医師不足や救急医療が全国的に問題となっている状況のなか、県では、平成18年度にドクターヘリを導入するなど様々な取り組みを行っています。

今回の調査では、救急医療体制の整備については、一次救急医療体制から三次救急医療体制まで含めた総合的な救急医療体制の整備が求められていると考えられます。

また、全体の7割は、自宅からの近さや対応の丁寧さなどを理由に、“かかりつけ”の医師や診療所、病院を決めていることがわかりました。

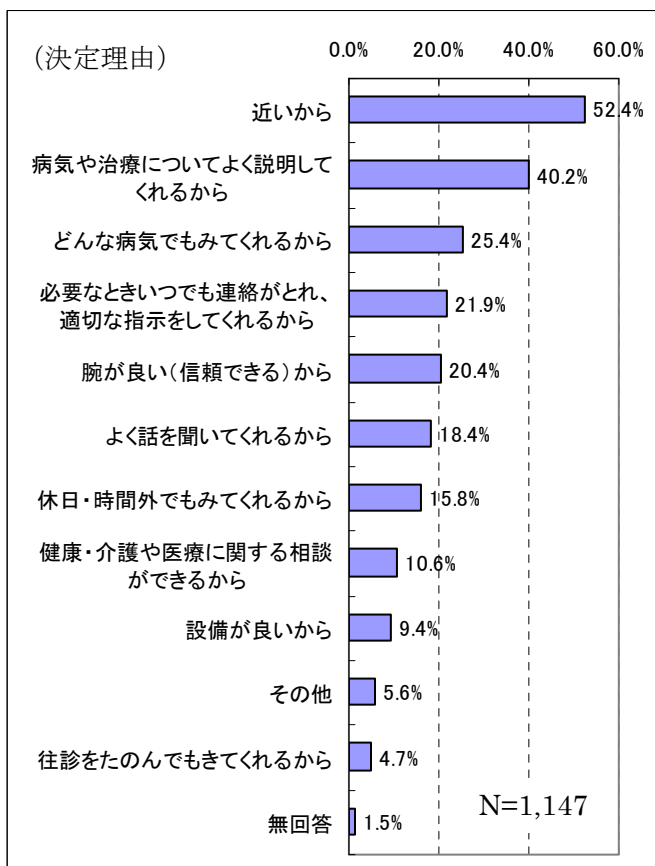
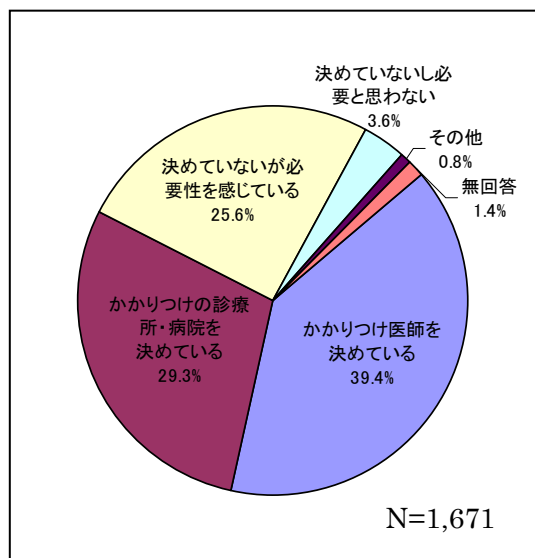
**Q26: かかりつけの医師・診療所・病院を決めているか。**

あなたはかかりつけの医師または診療所や病院を決めていますか。該当するものに1つ○印をつけてください。

**Q27: かかりつけの医師・診療所・病院をそこに決めた理由。**

(問26で「かかりつけ医師を決めている」、「かかりつけの診療所・病院を決めている」と回答した方にお聞きします。)

そこに決めた理由は何ですか。3つまで○印をつけてください。



**【調査結果(ポイント)】**

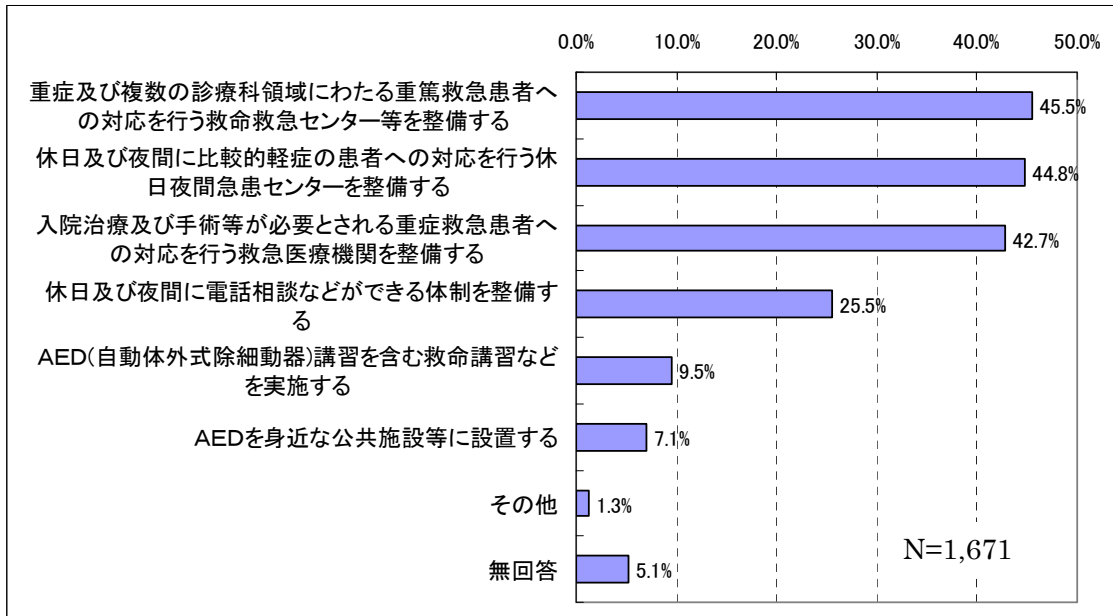
**全体の7割はかかりつけの“医師”、“診療所、病院”を決めている決定根拠は、“距離”、“説明の丁寧さ”など**

かかりつけ医師・診療所・病院を決めているかを尋ねたところ、何らかの“かかりつけ”を決めている割合は68%程度となっている。この他、「決めていないが必要性を感じている」の26%を含めると全体の94%に上るなど、“かかりつけ”の存在の重要性をうかがえる結果となった。

“かかりつけ”を決める理由は「近いから」という物理的な要因が最も強いが、年代別でみると、「近いから」、「腕が良いから」は年代が低いほど割合が高くなる傾向があり、反対に「病気や治療についてよく説明してくれるから」、「どんな病気でもみてくれるから」は、年代が高いほど割合も高くなる傾向がみられるなど、若い年代は“物理的な要因”や“専門性”、高い年代は“信頼関係”や“汎用性”などを求める傾向が強いといえる。

### Q28:身近な地域の救急医療体制を強化していくために必要なこと

今後、更に身近な地域の救急医療体制を強化していくためには何が必要だと思いますか。2つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

### 一次救急医療体制から三次救急医療体制まで含めた総合的な救急医療体制の整備が求められる

身近な地域の救急医療体制を強化していくために必要なことを尋ねたところ、「救命救急センター等を整備する」、「休日夜間急患センターを整備する」、「救急医療機関を整備する」などの受け入れ体制の強化を求める意見が多い結果となった。

救急医療体制の整備については、一次救急医療体制から三次救急医療体制まで含めた総合的な救急医療体制の整備が求められていると考えられる。

年代別でみると、「②休日夜間急患センターを整備する」は年代が低いほど割合が高くなる傾向がみられる。一方、「③救急医療機関を整備する」は年代が高いほど割合が高いなど、異なる傾向がみられる。

地域別でみると、離島地域では、「①救命救急センター等を整備する」、「③救急医療機関を整備する」の割合が高い。



# 健康づくり

近年、糖尿病等の生活習慣病を抱える働き盛りの方が増える一方、高齢化の進展に伴う認知症、寝たきりも社会問題となっています。

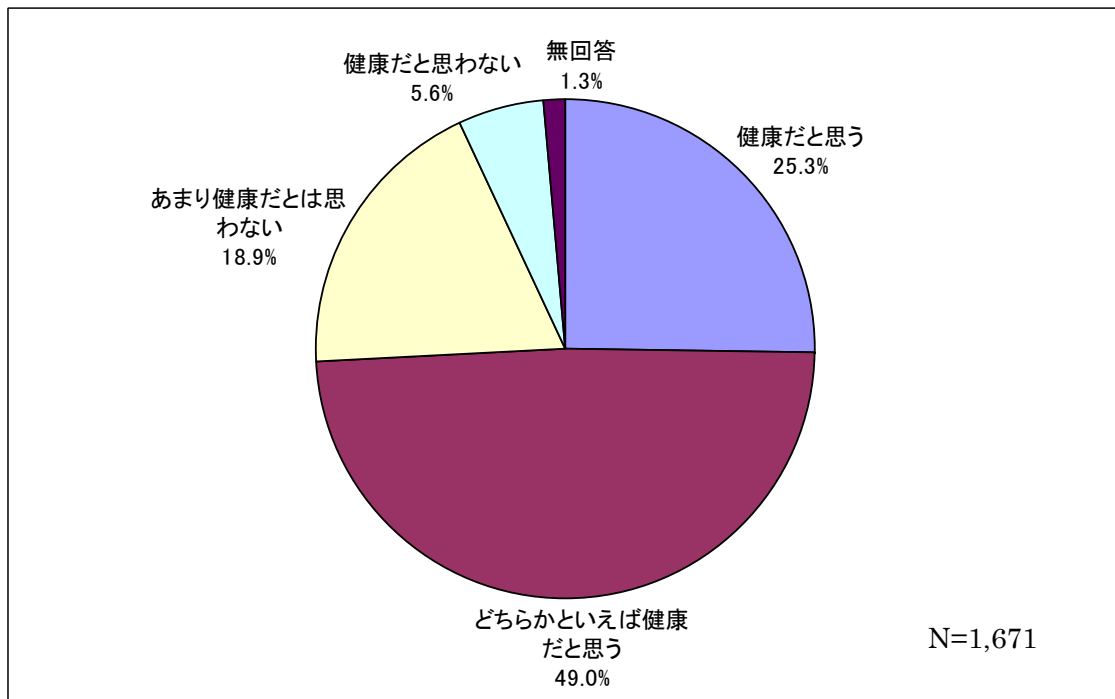
県ではこうした状況を踏まえ「壮年期死亡の減少」や「健康寿命延伸」を目標とする、健康増進計画「健康ながさき21」を策定して、健康づくりの取り組みを行っています。

今回の調査では、全体の7割は概ね健康という認識を持つが、高年代層や離島地域では平均を下回る状況が確認されました。

今後は、「生活習慣病対策」、「年齢等に応じた運動の方法」、「食生活の改善方法」などの情報をいかに効果的に情報発信していくことが重要であると考えられます。

### Q29:現在の健康状態

現在のご自身の健康状態はどのような状態だと思いますか。該当するものに1つ○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

**全体の7割以上が概ね健康。若い年代ほど健康と思う割合も高い  
離島地域では“健康”と思う割合が低い**

現在の健康状態を尋ねたところ、「健康だと思う」は25%、「どちらかといえば健康だと思う」が49%と、全体で7割以上が概ね健康という結果が得られた。

男女別では大きな違いはないものの、年代別では若い世代ほど健康と思う割合が高くなる傾向がみられ、「健康」と「どちらかといえば健康」を合計した値は、10代では86%であるのに対し、70代以上では54%と32ポイントの差がみられた。

また、離島地域では、「健康」、「どちらかといえば健康と思う」の合計割合が68%と平均を6ポイント下回り、反対に「あまり健康だとは思わない」、「健康だと思わない」の合計が31%と平均を6ポイント上回っている。

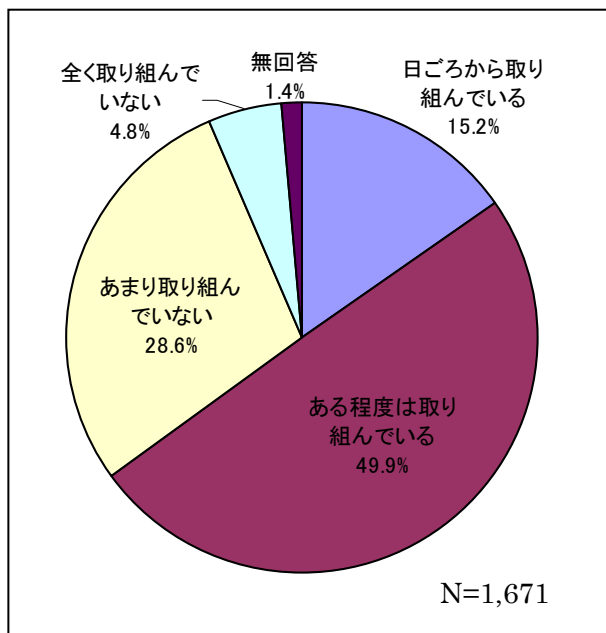
この結果は、前述した“県の政策の分野別の満足度評価”において、離島地域の「保健・医療の充実」についての満足度が特に低かった点と課題が一致するが、これは特筆すべき点である。

**Q30:健康状態の管理や生活習慣の改善に取り組んでいるか。**

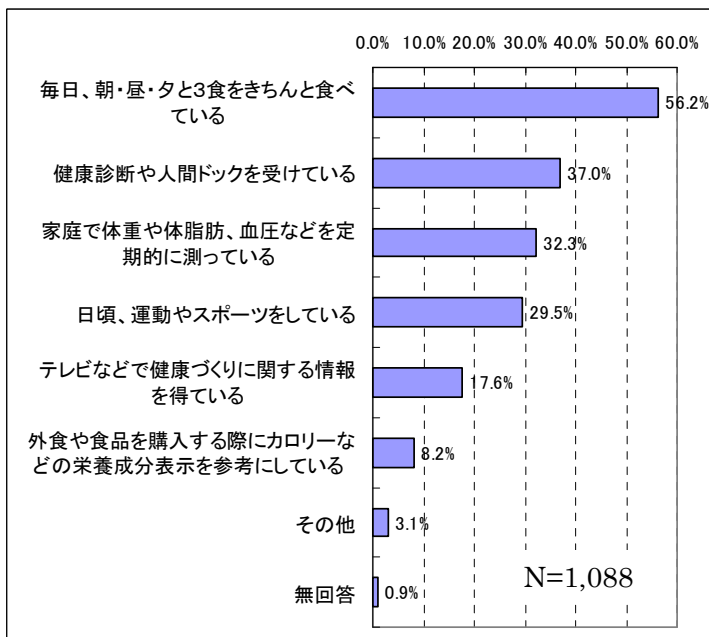
あなたは、ご自分の健康状態の管理や生活習慣の改善に取り組んでいますか。該当するものに1つ〇印をつけてください。

**Q31:普段、健康づくりのために特に気をつけていること**

(問30で「日頃から取り組んでいる」又は「ある程度取り組んでいる」と回答した方にお聞きます。)  
あなたが普段、健康づくりのために特に気をつけていることはなんですか。2つまで〇印をつけてください。



(普段気をつけていること)



**【調査結果(ポイント)】**

**“取り組んでいる”は全体の65%  
特に毎日の食事や健康診断などの関心が高い**

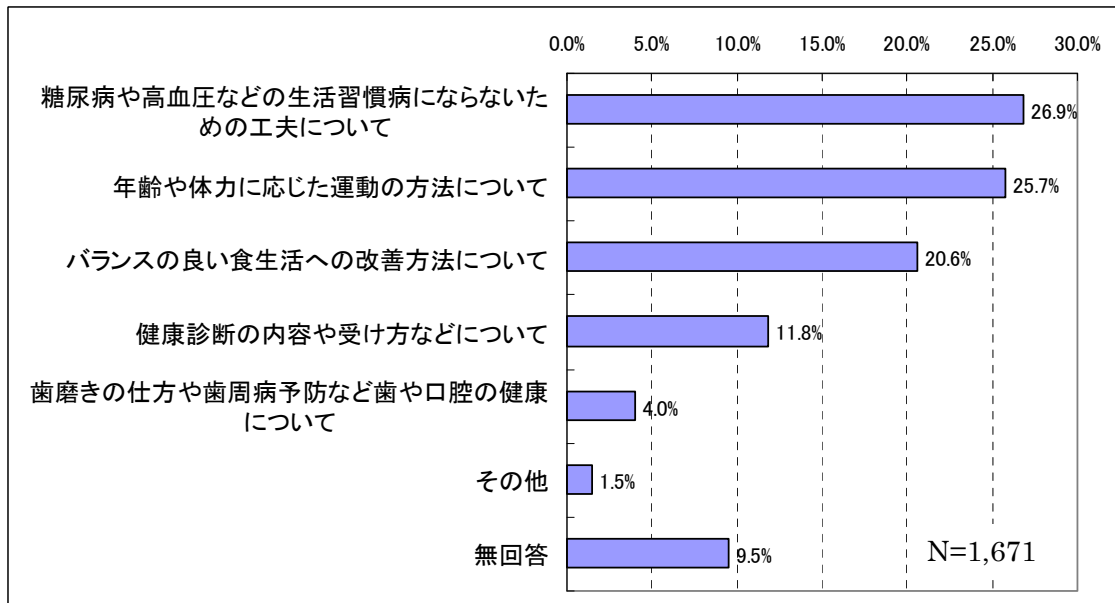
健康状態の管理や生活習慣の改善に取り組んでいるかどうか尋ねたところ、「日頃から取り組んでいる」が15%、「ある程度は取り組んでいる」が50%と全体の65%は取り組んでいる結果が得られた。特に高年代ほど管理や改善に取り組んでいる傾向が強く、性別では女性の割合が高い状況にある。

また、気をつけていることは何かと尋ねたところ、全体では「毎日、朝・昼・夕と3食きちんと食べている」が最も多く、以下、「健康診断や人間ドックを受けている」、「家庭で体重や体脂肪などを定期的に測っている」、「スポーツをしている」が続いている。

若い年代は、3食の食事とスポーツを重視する傾向が強く、40代、50代などは健康診断や人間ドック、60代以上は家庭での血圧などの定期的な測定など、年代による取り組みの違いがうかがえる結果となった。

### Q32:健康づくりについて知りたい情報

あなたは、健康づくりについて特にどのようなことを知りたいですか。該当するものに1つ〇印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

**「生活習慣病対策」、「年齢等に応じた運動の方法」、「食生活の改善方法」の情報を求める声が多い。**

健康づくりについて知りたい情報を尋ねたところ、「糖尿病や高血圧などの生活習慣病にならないための工夫について」が26.9%で最も高く、次いで「年齢や体力に応じた運動の方法について」の25.7%、「バランスの良い食生活への改善方法について」の20.6%の順となっている。

特に、「糖尿病や高血圧などの生活習慣病にならないための工夫について」は年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられた。





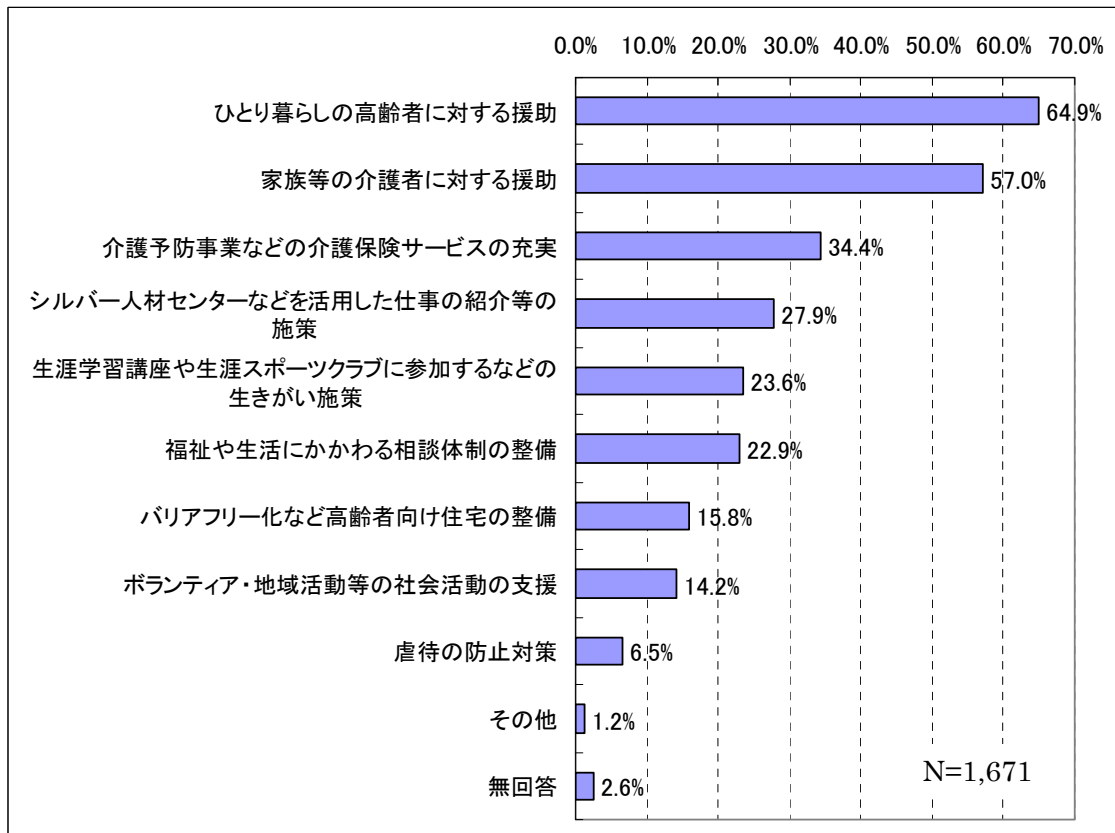
## 高齢者福祉

本県は、65 歳以上の高齢者が4人に1人と高齢化が進んでおり、また要介護状態になる割合も全国の中で特に高いことから、介護予防の推進は、県としても積極的に取り組むべき重要課題であると考えています。

今回の調査では、期待される高齢者施策は、「ひとり暮らしの高齢者に対する援助」や「介護者に対する援助」だけではなく、総合的な幅広い施策の展開が期待されていることがわかりました。

### Q33: 県が進める高齢者施策の中で特に重要なもの

今後、県が進める高齢者施策の中で特に何が重要だと思いますか。3つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

**「ひとり暮らしの高齢者に対する援助」、「家族等の介護者に対する援助」だけではなく、幅広い施策の展開が期待されている。**

特に重要な高齢者施策について尋ねたところ、「ひとり暮らしの高齢者に対する援助」が64.9%で最も高く、特に20代、30代などの若い世代での割合が高い特徴がある。

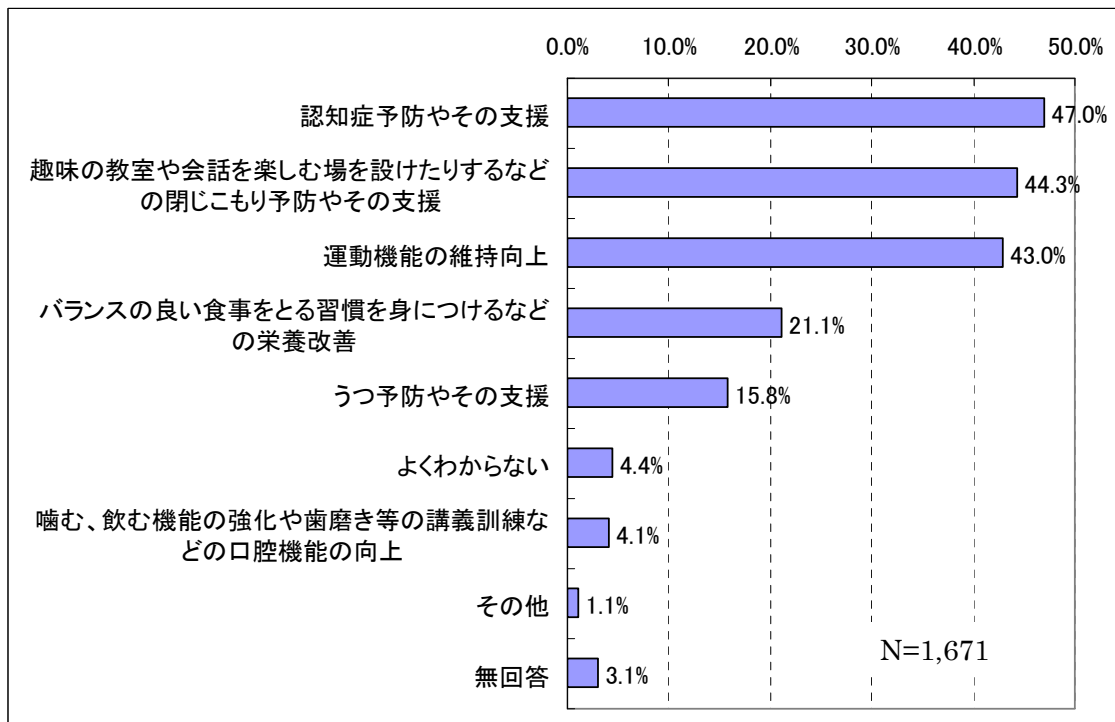
次いで「家族等の介護者に対する援助」の57.0%、「介護予防事業などの介護保険サービスの充実」の34.4%の順となっているが、「家族等の介護者に対する援助」は実際に介護を行う主体となり得る20代から40代の割合が他の年代よりも突出して高くなっている。

一方、「介護予防事業などの介護保険サービスの充実」は70代以上が高いなど、年代別にみると特に関係が深い分野の支援を求める傾向がうかがえる結果となった。

その他の項目についても、それぞれ一定の支持があることから、総合的な幅広い施策の展開が期待されていると考えられる。

### Q34:参加したい(参加させたい)介護予防事業

あなたやあなたの家族は、どのような介護予防事業に参加しよう(参加させたい)と考えますか。2つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

### 「認知症予防」、「閉じこもり予防」、 「運動機能の維持向上」が20%を超える高い割合

参加したい(参加させたい)介護予防事業を尋ねたところ、「認知症予防」、「閉じこもり予防」、「運動機能の維持向上」がいずれも40%以上の高い割合となり、「栄養改善」、「うつ予防」、「口腔機能の向上」など20ポイント以上上回る結果となった。

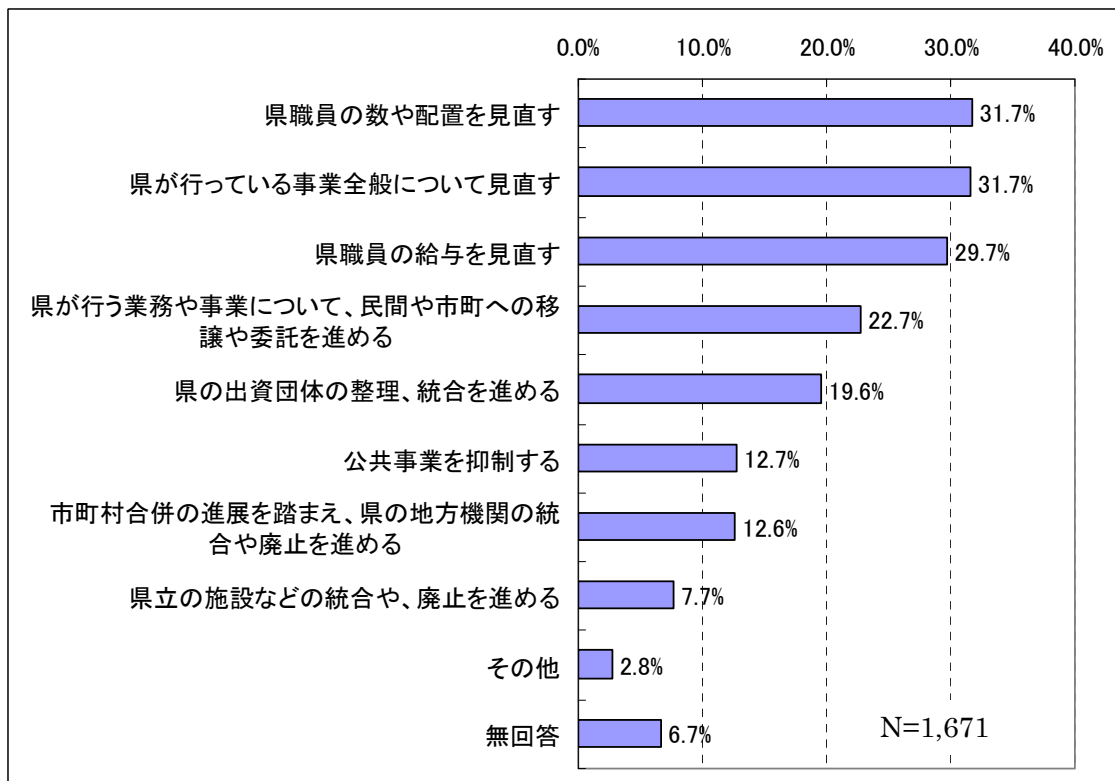
# 行財政改革等

本県では、厳しい財政状況、市町村合併の進展、官民の役割分担の見直しといった環境の変化や多様化する行政課題に的確に対応するため、平成18年2月に「長崎県行財政改革プラン」を策定し、行財政改革に積極的に取り組んでいます。

今回の調査では、求められている行財政改革は、職員数や給与、事業全般などを中心に幅広い分野にわたっていて、県職員の意識改革や県民参画、分かりやすい情報発信を進めながら、目に見える改革を推進することが期待されていることがわかりました。

### Q35: 県が進めている行財政改革で重要なもの

あなたは、県が進めている行財政改革について、どれがもっとも重要だと思いますか。  
2つまで○印をつけてください。



#### 【調査結果(ポイント)】

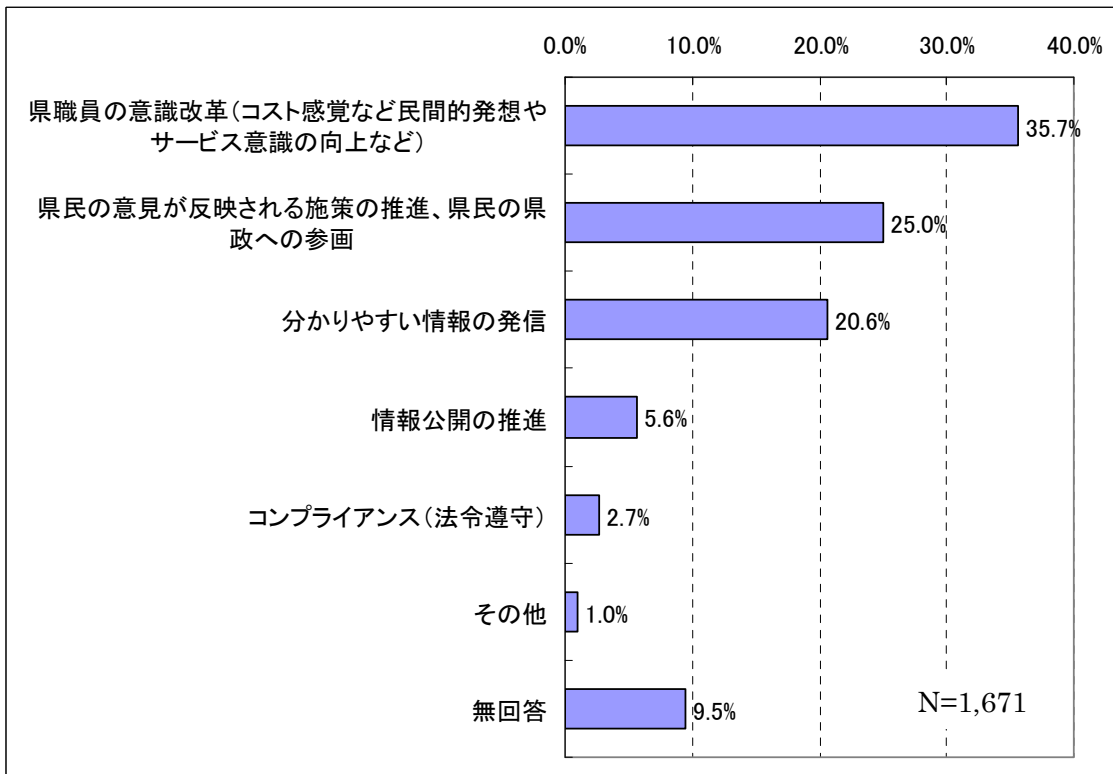
### 職員の数・給与、事業全般など、幅広い分野への改善要望

県が進めている行財政改革で重要なものを尋ねたところ、「県職員の数や配置を見直す」、「県が行っている事業全般について見直す」、「県職員の給与を見直す」の3項目が29%～32%程度の高い割合となっている。

年代別でみると、「県が行っている事業全般について見直す」は低い年代の割合が高く、「市町村合併の進展を踏まえ、県の地方機関の統合や廃止を進める」、「県職員の数や配置を見直す」、「県の出資団体の整理、統合を進める」は年代が高くなるにつれて割合も高くなる傾向がみられる。

**Q36: 県が行政を進める際に特に力を入れるべき姿勢**

県が行政を進める姿勢として、どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか？  
該当するものに1つ〇印をつけてください。



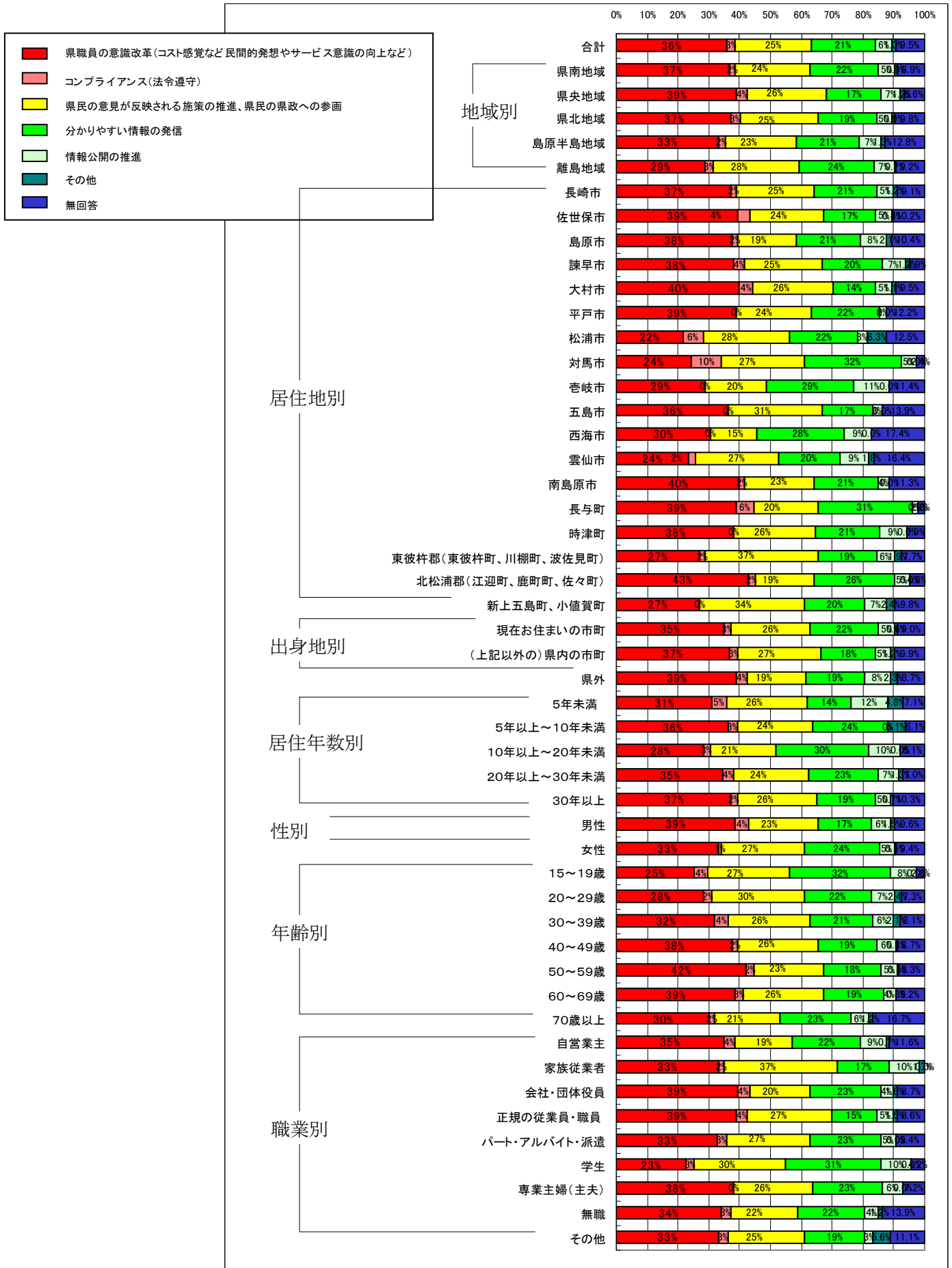
**【調査結果(ポイント)】**

**「県職員の意識改革」がトップ  
県民参加、分かりやすい情報発信も重要**

県が行政を進める際に特に力を入れるべき姿勢を尋ねたところ、「県職員の意識改革」が36%で最も割合が高く、2位の「県民の県政への参画」を10ポイント以上、上回る結果となった。

「県職員の意識改革」は幅広い年代で高い割合となっているが、中でも40代から60代にかけて高い割合となっている。

(属性別クロス)



# 調 査 票



# 長崎県県政アンケート調査 調査票



はじめに、ご自身のことについておたずねします。

Q. 現在お住まいの市町はどちらですか。

( \_\_\_\_\_ 市・町 )

Q. ご出身はどちらですか。(1つ〇)

1. 現在お住まいの市町
2. (上記以外の) 県内の市町
3. 県外

Q. 長崎県内での居住年数(通算)をお答えください。(1つ〇)

1. 5年未満
2. 5年以上～10年未満
3. 10年以上～20年未満
4. 20年以上～30年未満
5. 30年以上

Q. あなたの性別をお答えください。(1つ〇)

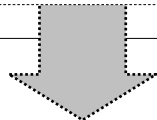
1. 男
2. 女

Q. あなたの年齢をお答えください。(1つ〇)

1. 15～19歳
2. 20～29歳
3. 30～39歳
4. 40～49歳
5. 50～59歳
6. 60～69歳
7. 70歳以上

Q. あなたのご職業(業種)はどれですか。(1つ〇)

- |                   |            |
|-------------------|------------|
| 1 自営業主            | 6 学生       |
| 2 家族従業者           | 7 専業主婦(主夫) |
| 3 会社・団体役員         | 8 無職       |
| 4 正規の従業員・職員       | 9 その他( )   |
| 5 パート・アルバイト・派遣・嘱託 |            |



(1～5を選んだ方へ)

従事している職業は、次のうち、どの分野にあたりますか。(1つ〇)

- |          |             |
|----------|-------------|
| 1 農林業    | 6 飲食業       |
| 2 水産業    | 7 サービス業     |
| 3 建築・土木業 | 8 公務(官公庁など) |
| 4 製造業    | 9 その他( )    |
| 5 商業     |             |



問1 県の政策における分野毎の満足度についてお聞きします。  
 それぞれ該当するものに、1つ〇印をつけてください。

あなたが普段感じている  
 ことを5点満点で評価する  
 イメージでそれぞれに〇  
 をつけてください！



①“交流・まちづくり”の分野

分野	内容(取組み)	満足度(それぞれ〇をつけてください)				
		満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満
記入例		5	4	3	2	1
観光の振興	自然、歴史文化などを活かした旅行商品や観光地づくり、受入体制の整備、PR強化 など	5	4	3	2	1
国際交流の推進	海外との友好交流、被爆県としての国際貢献・平和貢献 など	5	4	3	2	1
公共交通機関の充実	新幹線や JR 在来線、バス、航路、航空路線の充実 など	5	4	3	2	1
公共施設の整備	道路、公園、港湾、河川、ダムなどの公共施設の整備、補修 など	5	4	3	2	1
美しいまちづくり	町並み景観の整備、自然景観・文化的景観の保全・創出 など	5	4	3	2	1
定住化・Uターン促進	若者の流出防止、情報発信、移住者向け住宅の確保 など	5	4	3	2	1
文化・芸術の振興	文化に触れる機会の充実、伝統文化・芸能の継承 など	5	4	3	2	1
スポーツの振興	スポーツに親しめる地域の環境づくり など	5	4	3	2	1

## ②“産業(仕事・雇用)”の分野

分野	内容(取組み)	満足度(それぞれ○をつけてください)				
		満足	やや満足	どちらとも いえない	やや 不満	不満
物産の振興	農林水産品等のブランド化、県産品の販路拡大など	5	4	3	2	1
雇用対策	企業誘致等による雇用の拡大、就職情報の提供、職業訓練 など	5	4	3	2	1
商工業の振興	地場企業の支援、企業誘致、起業・創業支援、商店街の活性化 など	5	4	3	2	1
農林水産業の振興	農林水産業の生産性・収益性の向上、農地・森林などの整備、漁港・漁場の整備 など	5	4	3	2	1



### ③“暮らし”の分野

分野	内容(取組み)	満足度(それぞれ○をつけてください)				
		満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
安全な暮らしづくり	犯罪防止、治安対策、食の安全・安心 など	5	4	3	2	1
防災対策	自然災害の防止、建築物の耐震化、防災都市づくり など	5	4	3	2	1
保健・医療の充実	医療体制・施設の充実、健康づくりの支援、各種サービスの充実 など	5	4	3	2	1
福祉の充実	高齢者や障害者などが安心して暮らせる環境づくり など	5	4	3	2	1
環境対策	地球温暖化防止、水質の保全、自然公園の整備、ごみ対策 など	5	4	3	2	1
教育の充実	学力向上、命の大切さなどの道德教育 など	5	4	3	2	1
子どもや子育ての支援	地域ぐるみでの支援体制、保育の充実、子供の健全育成 など	5	4	3	2	1
人にやさしい社会づくり	男女共同参画、人権教育、消費者保護、NPO、ボランティア など	5	4	3	2	1
将来を担う人材育成	地域を支えるリーダーの育成、各産業の人材育成 など	5	4	3	2	1
<b>問2支援 県の政策の総合的な満足度は？ (①～③の総合評価)</b>		5	4	3	2	1



問3 日常生活についての満足度についてお聞きします。  
それぞれ該当するものに、  
1つ〇印をつけてください。



	満足度(それぞれ〇をつけてください)				
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
1 住んでいる家(住宅)	5	4	3	2	1
2 自分および家族の健康	5	4	3	2	1
3 子育て	5	4	3	2	1
4 子どもの教育	5	4	3	2	1
5 今の仕事の内容	5	4	3	2	1
6 収入	5	4	3	2	1
7 老後・将来の生活設計	5	4	3	2	1
8 娯楽・レジャー	5	4	3	2	1
9 教養・文化活動	5	4	3	2	1
10 交際・人間関係	5	4	3	2	1
11 ボランティア活動への参加	5	4	3	2	1
<b>問4 現在の日常生活の総合的な満足度は？</b>	5	4	3	2	1





**問8** 県では、下記のような「人」を対象とした雇用対策に取り組んでいますが、今後、特に強化すべきと思われる対象は誰ですか。2つまで○印をつけてください。

1. 高校や大学、専門学校を卒業する新卒者
2. 倒産や解雇などで離職した人
3. 子育てを終えて就職を希望する人
4. 高齢者や障害者、母子家庭の母などの就職困難者
5. U I ターン、移住者
6. フリーターやニート（若年無業者）
7. その他（ )

**問9** 県内で就職してもらうために、新卒者、若者向けの雇用対策として、今後、県ではどのような取り組みが必要だと思いますか。2つまで○印をつけてください。

1. 求職相談体制の強化
2. 求人情報の提供
3. 職業訓練の場の提供
4. 学生時代からの職場体験などの実施
5. 若者が就職したくなるような魅力ある企業の誘致
6. 県内企業の雇用を維持（拡大）するための企業への助成
7. その他（ )

**問10** 今後、本県において、新しい雇用を生み出す分野として期待される分野はどの分野だと思いますか。3つまで○印をつけてください。

1. 介護や医療、福祉などの分野（高齢者、子育て）
2. 環境、地球温暖化防止などの分野
3. 太陽光発電などの新エネルギーの分野
4. 耕作放棄地解消をはじめとした農林水産業の分野
5. 新しい施工技術の活用をはじめとした土木、建築の分野
6. 造船、自動車、電気製品などの製造業の分野
7. コンピューター関連などの I T、通信の分野
8. ブランド商品の開発などの商業、物産の分野
9. 観光ガイドなどの観光、交流の分野
10. その他（ )







**問14** あなたは、過去1年間に観光目的で県内の離島地域に行ったことがありますか(日帰り旅行を含む)。

行ったことがある人は、該当するもの全てに○印をつけてください。

1. 行ったことがない

2. 行ったことがある →

(具体的にはどの島ですか)

1. 下五島

2. 上五島 (宇久・小値賀を除く)

3. 壱岐

4. 対馬

5. その他 ( )

**問15** (前問で「1. 行ったことがない」と回答した方にお聞きします)

長崎県内の離島地域に観光目的で行かない主な理由はなんですか。

2つまで○印をつけてください。

1. 島の観光資源に魅力を感じないため

2. 船代、飛行機代などの交通費が高いため

3. 希望にあった宿泊施設がないため

4. 離島地域までの交通手段が不便なため

5. 島内での交通手段がなく、移動が不便なため

6. 体験プログラムや観光ルートなどが十分ではないため

7. 何が魅力か分からないため (興味がないため)

8. その他 ( )

**問16** (前問で「2. 行ったことがある」と回答した方にお聞きします)

長崎県内の離島地域を訪れる目的・理由は何ですか。

2つまで○印をつけてください。

1. 安価で気軽にリゾート気分、旅行気分を味わえるから

2. 教会群などのキリスト教関連遺産や歴史文化が豊富だから

3. 海や山などの自然景観がすばらしいから

4. 新鮮な魚介類などの料理、食文化が魅力的だから

5. ゆっくりとした時間をすごせるから

6. 普段体験できないイベントや体験型観光等に参加するから

7. その他 ( )



# 長崎県産品について

問17 あなたは長崎県の県産品について、他県と比べてどのようなイメージをお持ちですか。2つまで○印をつけてください。

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| 1. 全国で有名な農水産物が多い | 2. おいしい     |
| 3. 安全・安心である      | 4. 種類が豊富である |
| 5. 新鮮である         | 6. 値段が安い    |
| 7. 特に良いイメージはない   |             |
| 8. その他 ( )       |             |

問18 あなたは、買い物をする際、品物が長崎県産であることを重視していますか。該当するものに○印をつけてください。

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問19 (前問で「1. はい」と回答した方にお聞きします)  
あなたが県産品を購入する際の基準はどれですか。該当するものに1つ○印をつけてください。

1. 値段に関係なく「長崎県産」を選ぶ
2. 「他県産」「国外産」より値段が少し高いと感じる程度なら「長崎県産」を選ぶ
3. 「他県産」「国外産」と値段が同程度であれば「長崎県産」を選ぶ
4. その他 ( )

問20 現在、県では下記の10品目を選定し、これらの商品のPRや販売支援を行い、長崎県産品のブランド化に取り組んでいます。

あなたから見て、長崎県のブランドとして、県外に出して自慢できる商品だと思うものはどれですか。該当するもの全てに○印をつけてください。

1. 長崎さちのか
2. 長崎みかん
3. 長崎びわ
4. 長崎アスパラ
5. 長崎じゃが
6. 長崎和牛
7. ごんあじ
8. 長崎いさき (値賀咲)
9. 長崎とらふぐ
10. 長崎たちうお





# 農林水産業について

問21 あなたが農山漁村との交流の中で行いたいこと、参加したいことはどのようなことですか。3つまで○印をつけてください。

1. 直売所などで、新鮮な農産物・水産物を購入したい
2. 森林や牧場、海など、農山漁村の資源を利用して、保養や休養をとりたい
3. 農山漁村の自然（山、海、川など）の中で遊んだり、生き物と触れ合ったりしてみたい
4. 農家漁家民宿に宿泊して、地域の人とふれあってみたい
5. その土地の伝統料理や郷土食を楽しみたい
6. 観光農園で刈り取り、もぎ取りなどの体験をしたい
7. 農山漁村で田植えなどの農業体験や魚釣りなどの漁業体験をしたい
8. 農山漁村の行事、祭りに参加したい
9. 民芸品づくりなどの創作活動を行いたい
10. 農業・漁業を職業としたい
11. その他（ )



問22 今後、長崎県は、県内の農林水産業に対して、どのような支援をしていくべきだと思いますか。3つまで○印をつけてください。

1. 農林道・臨港道路、漁港、堤防などのインフラ整備を進める
2. 農業用・漁業用機械の導入や集出荷施設・貯蔵施設などの整備を進める
3. 下水道の整備など、農山漁村の生活環境の整備を進める
4. 農業・水産業に専念する後継者を育成し、その人が農業・水産業を続けていけるようにする
5. 県産（農林水産）品のPRを行い、地産地消や販路拡大を進める
6. 農林水産物の直売などを進め、生産者と消費者の交流を活発にする
7. 農林水産業の新しい技術や品種の開発・普及を進める
8. ソーラー農耕機やLED（発光ダイオード）を利用した照明の導入など、環境にやさしい農林水産業に向けた技術の確立や普及を進める
9. 食の安全・安心を確保するため、農薬等の適正使用に関する講習会などを開催する
10. 離島や山間部、傾斜地など、地理的に不利な地域で農林水産業を続けていけるようにする
11. その他（ )



# 子育てについて

**問23** 現在、県では、誰もが安心して子育てができる環境の実現に取り組んでいます。今後、県が進める子育て支援の施策の中で、どれに力を入れていくべきだと思いますか。2つまで〇印をつけてください。

1. 子ども手当や出産に関する補助など、子育てに関する経済的支援
2. 保育所、幼稚園、放課後児童クラブなどの保育サービスの充実
3. ファミリーサポートセンターなど、子どもを一時的に預かる制度の充実
4. 育児休業の取得促進や子育て期間中の短時間勤務の利用促進など、子育てと仕事の両立ができる環境の推進
5. 地域子育て支援センターなど、地域における相談体制の整備
6. 県民みんなで子育てを応援する気運をつくる
7. その他 ( )

**問24** 家庭教育や子育てのあり方について、最近、子どもに基本的な生活習慣をつけるなどの家庭の教育力が低下しているのではないかという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。該当するものに1つ〇印をつけてください。

1. そのとおりだと思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそうは思わない
5. そうは思わない



**問25** (前問で「1. そのとおりだと思う」又は「2. どちらかといえばそう思う」と回答した方のみお答えください。)

家庭の教育力が低下した理由はどこにあると思いますか。2つまで〇印をつけてください。

1. 子どもに対するしつけや教育に無関心な親が増加したから
2. 子どもに対するしつけや教育の仕方がわからず、自信を持ってない親が増加したから
3. 子どもに対して、過保護、甘やかしすぎや過干渉な親が増加したから
4. 子どもに対するしつけや教育についての相談相手が不足しているから
5. 学校や塾など外部の教育機関に対してしつけや教育を依存するようになったから
6. テレビ、映画、雑誌、インターネットなど家庭の外部からの情報や影響が大きくなってきたから
7. 親子や親以外の大人(祖父母、近所の人)とふれあい、共に行動する機会が不足しているから
8. その他 ( )



# 医療について

問26 県では、地域の医療機関が相互に連携を図り、それぞれの機能を有効活用する取り組みの一つとして、日頃の診察の他にも健康相談や指導など普段の健康管理をしてくれる「かかりつけ医」を持つことをすすめています。

あなたはかかりつけの医師または診療所や病院を決めていますか。該当するものに1つ○印をつけてください。

1. かかりつけ医師を決めている
2. かかりつけの診療所・病院を決めている
3. 決めていないが必要性を感じている
4. 決めていないし必要と思わない
5. その他 ( )

問27 (前問で「1. かかりつけ医師を決めている」、「2. かかりつけの診療所・病院を決めている」と回答した方にお聞きします)

そこに決めた理由は何ですか。3つまで○印をつけてください。

1. どんな病気でもみってくれるから
2. 休日・時間外でもみってくれるから
3. 必要なときいつでも連絡がとれ、適切な指示をしてくれるから
4. 往診をたのんでもきてくれるから
5. 病気や治療についてよく説明してくれるから
6. 設備が良いから
7. 近いから
8. 腕が良い(信頼できる)から
9. 健康・介護や医療に関する相談ができるから
10. よく話を聞いてくれるから
11. その他 ( )



問28 県では、救急医療体制の強化の一環として、平成18年より「ドクターヘリ事業」を実施しています。今後、更に身近な地域の救急医療体制を強化していくためには何が重要だと思いますか。2つまで○印をつけてください。

1. 重症及び複数の診療科領域にわたる重篤救急患者への対応を行う救命救急センター等を整備する
2. 入院治療及び手術等が必要とされる重症救急患者への対応を行う救急医療機関を整備する
3. 休日及び夜間に比較的軽症の患者への対応を行う休日夜間急患センターを整備する
4. 休日及び夜間に電話相談などができる体制を整備する
5. AED(自動体外式除細動器)講習を含む救命講習などを実施する
6. AEDを身近な公共施設等に設置する
7. その他 ( )





# 健康づくりについて

問29 現在のご自身の健康状態はどのような状態だと思えますか。  
該当するものに1つ○印をつけてください。

1. 健康だと思う
2. どちらかといえば健康だと思う
3. あまり健康だとは思わない
4. 健康だと思わない



問30 あなたは、ご自分の健康状態の管理や生活習慣の改善に取り組んでいますか。該当するものに1つ○印をつけてください。

1. 日ごろから取り組んでいる
2. ある程度は取り組んでいる
3. あまり取り組んでいない
4. 全く取り組んでいない

問31 (前問で「1. 日頃から取り組んでいる」又は「2. ある程度は取り組んでいる」と回答した方にお聞きします)

あなたが普段、健康づくりのために特に気をつけていることはなんですか。  
2つまで○印をつけてください。

1. 健康診断や人間ドックを受けている
2. 家庭で体重や体脂肪、血圧などを定期的に測っている
3. テレビなどで健康づくりに関する情報を得ている
4. 日頃、運動やスポーツをしている
5. 毎日、朝・昼・夕と3食をきちんと食べている
6. 外食や食品を購入する際にカロリーなどの栄養成分表示を参考にしている
7. その他 ( )

問32 あなたは、健康づくりについて特にどのようなことを知りたいですか。  
該当するものに1つ○印をつけてください。

1. 糖尿病や高血圧などの生活習慣病にならないための工夫について
2. バランスの良い食生活への改善方法について
3. 年齢や体力に応じた運動の方法について
4. 健康診断の内容や受け方などについて
5. 歯磨きの仕方や歯周病予防など歯や口腔の健康について
6. その他 ( )



# 高齢者福祉について

問33 現在、県では、誰もが安心して生活できるいたわりと温もりのある高齢社会の実現に取り組んでいます。今後、県が進める高齢者施策の中で特に何が重要だと思いますか。3つまで○印をつけてください。

1. シルバー人材センターなどを活用した仕事の紹介等の施策
2. 生涯学習講座や生涯スポーツクラブに参加するなどの生きがい施策
3. ボランティア・地域活動等の社会活動の支援
4. ひとり暮らしの高齢者に対する援助
5. バリアフリー化など高齢者向け住宅の整備
6. 虐待の防止対策
7. 介護予防事業などの介護保険サービスの充実
8. 家族等の介護者に対する援助
9. 福祉や生活にかかわる相談体制の整備
10. その他 ( )

問34 高齢社会が進んでいる中、いつまでも元気で自分らしい生活を送れるように、以下のような介護予防についての取り組みが行われています。

あなたやあなたの家族は、どのような介護予防事業に参加しよう(参加させたい)と考えますか。2つまで○印をつけてください。

1. 運動機能の維持向上
2. 認知症予防やその支援
3. 噛む、飲む機能の強化や歯磨き等の講義訓練などの口腔機能の向上
4. 趣味の教室や会話を楽しむ場を設けたりするなどの閉じこもり予防やその支援
5. バランスの良い食事をする習慣を身につけるなどの栄養改善
6. うつ予防やその支援
7. よくわからない
8. その他 ( )





# 行財政改革等について

問35 あなたは、県が進めている行財政改革について、どれがもっとも重要だと思いますか。2つまで〇印をつけてください。

1. 県が行っている事業全般について見直す
2. 公共事業を抑制する
3. 市町村合併の進展を踏まえ、県の地方機関の統合や廃止を進める
4. 県が行う業務や事業について、民間や市町への移譲や委託を進める
5. 県職員の数や配置を見直す
6. 県職員の給与を見直す
7. 県立の施設などの統合や、廃止を進める
8. 県の出資団体の整理、統合を進める
9. その他 ( )

問36 県では、徹底した情報公開や県民が県政に積極的に参画できる仕組みづくりなど、開かれた県政を推進するとともに、時代の変化に対応し、県民の期待に応えられるように職員の人材育成や意識改革に取り組んでいます。

県が行政を進める姿勢として、どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか？該当するものに1つ〇印をつけてください。

1. 県職員の意識改革（コスト感覚など民間的発想やサービス意識の向上など）
2. コンプライアンス（法令遵守）
3. 県民の意見が反映される施策の推進、県民の県政への参画
4. 分かりやすい情報の発信
5. 情報公開の推進
6. その他 ( )

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。